

其罪ナキ實證アレハ之ヲ宥恕スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ急ニ其趣ヲ出張ノ監

督役ニ達シテ暫ク其處置ニ取掛ルヲ見合セシムヘ

第十五節

右紙幣引換滞ニ付持參人出願ノ入費及諸檢査

糺問ノ入費跡引請人ノ入費共都テ相當ノ處置ヲ以テ紙幣頭之ヲ取究メ銀行ヨリ之ヲ辨セシムヘシ

第十九條

銀行鎖店ノ手續及其紙幣引換方ノヲ明ニス

第一節 國立銀行ハ三分二以上ノ株主ノ說ニ從テ平穩ニ

之ヲ分散シ之ヲ鎖店スルヲ得ヘシ

第二節

右分散又ハ鎖店セントスルニハ其取締役ノ決議

ヲ任セ其銀行ノ頭取支配人ヨリ銀行ノ名印ヲ以テ其趣

ヲ紙幣頭ニ報告シ又三ヶ月間東京大坂ノ新聞紙其他ノ

手續ニテ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬

スル取引ノ清算ヲ公ニ世人ニ告知シ且其事ヲ促スヘシ

第三節 右公告ヲ爲シタル日ヨリ其銀行ハ其引換タル紙

幣ヲ以テ出納寮ニ預ケタル公債證書ノ内ヲ取戻スヲ

得ヘシ尤モ其公告ノ日ヨリ半年ヲ過キ簿冊上ニ於テ

尙世上ニ殘在スル紙幣アレハ其高丈ケヲ正金ニテ出納

頭ニ差出シ公債證書ノ預高ヲ全ク取戻スヲ得ヘシ
第四節 然ル上ハ其銀行發行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ
大藏省ニテ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ聊モ其責ニ任セ
サルヘシ

第五節 出納頭ハ其鎖店シタル銀行ノ殘リ紙幣引換ノタ
メ銀行ヨリ正金ヲ請取ラハ其趣ヲ詳記シタル受取書ニ
通ヲ作り一通宛紙幣寮ト其銀行ヘ渡スヘシ

第六節 紙幣頭ハ此受取書ヲ得レハ大藏卿ノ許可ヲ乞テ
直ニ其殘在紙幣ノ引換方ヲ新聞紙其他ノ手續ニテ世上
ニ公告シ相當ノ期限ヲ以テ之ヲ正金ニ引換遣ハスヘシ

第七節 右ノ手續ニテ引換タル紙幣ハ此條例ノ定規ニ從
テ之ヲ燒捨其次第ヲ世上ニ公告スヘシ

第八節 右ニ屬スル諸計算其外トモ出納頭紙幣頭ハ各其
簿冊ニ詳記シ置クヘシ

第廿條 別段ノ銀行モ此條例ニ從テ轉業シ得ル
ノ手續ヲ明ニス

第一節 特例ヲ以テ會ヲ結ヒタル銀行又ハ爲替銀行ノ類
ハ此條例ノ趣旨ニ遵テ國立銀行ノ列ニ加ハルヲ得ヘシ
然ル時ハ此條例ニ於テ定メタル創立證書定款等ハ從前
ノ取扱人等之ヲ處置シ何銀行又ハ何爲替銀行ヨリ轉業

シタル趣ヲ記載シ諸般ノ手續ヲナスヘシ
 第三節 社號并元金ノ株主ハ從前ノ儘之ヲ用テ苦シカラ
 ス尤此條例ノ定規ニ照準シ取締役其外ノ役員ヲ撰任ス
 ル迄ハ前ノ取扱人等之ヲ擔當スヘシ
 但株高并元金高其外共都テ此條例ノ定規ニ遵フヘシ
 第三節 紙幣頭ヨリ轉業ヲ許シ開業免狀ヲ與フレハ從前
 銀行又ハ爲替銀行ノ節所有スル特典殊例ハ全ク消却シ
 都テ此條例ニ從テ新ニ創立シタル國立銀行ト異ルナ
 カルヘシ

第廿二條 此條例ニテ發行スヘキ紙幣之目算ヲ

四九

明ニス

第一節 此條例ニ從テ創立スヘキ國立銀行ヨリ發行スル
 紙幣ノ總高ハ概子一億圓ヲ以テ定限ノ目的トスヘシ
 第廿二條 此條例ノ外他ニ金券又ハ紙幣ノ類ヲ
 發行スル銀行ヲ禁止スルヲ明ニス
 第一節 此條例ニ從テ國立銀行創立ノ事ヲ制定シタル後
 ハ何レノ人何レノ方法ヲ不論他ノ所置ヲ以テ紙幣金券
 及通用手形類ヲ行フハ都テ之ヲ禁止スヘシ
 第二節 故ニ從來官許ニテ金券通用手形ノ類ヲ發行シテ
 營業スル銀行又ハ商會ト云トモ速ニ其通用ヲ止メ之ヲ

正金ニ引換ルノ處置ヲナサシムヘシ

第三節 爲替兩替預リ金貸附等都テ銀行ニ類スル業ヲ營

ム者ハ向後紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ其營業ヲ爲ス可ラ

ス故ニ從來其業ヲトスル商會又ハ銀行等ハ其地方官

廳ヲ經テ在來營業ノ次第ヲ悉ク紙幣寮モラシメクヘ申牒シ其指令

ニ從テ報告書ヲ差出スヘシ

但向後創立ノ分ハ勿論其前ニ紙幣頭ノ承認ヲ受テ營業スヘシ

第廿三條 銀行ノ訴訟ハ一般ノ處置ト異ラサル

トヲ明ニス

第一節 國立銀行ニテ他ノ商會又ハ銀行其外ノ取引先ヲ

相手トシテ控訴スルカ又ハ他人ヨリ此銀行ヲ相手トシ

テ訴訟ノコアルトモ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其地方官

廳ニ於テ之ヲ裁判スヘシ

第二節 國立銀行ヨリ紙幣頭ヘ差出ス宥免願ノ類ハ其地

方官廳ノ手ヲ經テ之ヲ出スヘシ

第廿四條 銀行簿記計表報告書等書例ノ事ヲ明

ニス

第一節 國立銀行ノ諸簿冊計表其他ノ諸計算書類ハ極テ

精確ニ記載シ且簡明ヲ要スヘシ尤モ諸約定書証書手形

類其他ノ要書ハ堅ク之ヲ庫中ニ管守スヘシ

第二節 銀行創立及營業中ノ諸証書定款又ハ報告書計表ノ類ハ銀行成規ノ書例ニ從フヘシ

第廿五條 銀行ノ役員奉務上ノ禁令ヲ明ニス

第一節 凡ソ國立銀行ノ頭取取締役支配人其外ノ役員ハ私ニ銀行ノ有金ヲ費糜シ又ハ之ヲ掠取リ又ハ私ノ費用ニ供フヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ紙幣ヲ發行シ預リ証書ヲ出シ爲替手形約定手形諸約定諸貸附等ヲナス可ラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其外ノ要書中ニ詐偽ヲ記載スヘカラス又私曲ヲ謀リテ其銀行ノ株

主又ハ官吏商會其他ノ者ヲ欺キ及銀行實際ノ検査役ヲ欺キ又ハ欺ント謀ルヘカラス若此數件ヲ犯ス者アラハ皆國法ニ從テ之ヲ罪科ニ處スヘシ

第二節 銀行ノ役員ハ其銀行ヨリ發行スル紙幣又ハ手形證書ノ類ハ之ヲ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ地方官廳ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ罰金ヲ銀行へ拂ハシムヘシ

第三節 若シ他人ヲリトモ銀行ノ役人ヲ誘ヒ右等ノ惡事ヲナサシメ又ハ其惡事ヲ助クル者アレハ何等ノ人ヲ不

論同等ノ罪科ニ處スヘシ

第四節 銀行ノ役員ニ連ナル者ハ假令其私宅ニ於テモ私
ノ商業ヲナスヘカラス若シ銀行ノ名ヲ假リテ自己ノ利
益ヲ謀ル者アレハ假令如何ナル處置タリトモ之ヲ不正
ノ所爲トナシテ相當ノ罪科ニ處スヘシ

但銀行ノ株主ニテモ役員ニ連ラサレハ別ニ自己ノ商
賣職業ヲナスヲ勝手タルヘシ

第廿六條 銀行頭取取締役處務上ノ禁令ヲ明ニ
ス

第一節 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ自ラ此條例ニ悖

リ又ハ銀行ノ役員又ハ株主等ヲシテ猥ニ之ニ戻ラシム
ヘカラス若シ或ハ悖戻ノヲアレハ此條例ニ於テ其銀行
ヘ與ヘタル條理特權ハ悉ク之ヲ取上クヘシ

但其悖戻ノ罪ハ其銀行ヲ鎖店セシムルノ前紙幣頭ヨ
リ通達シテ其地方官廳ニ於テ之ヲ糾正スヘシ

第二節 此條例ノ悖戻モシ頭取取締役ニアリテ其爲ニ株
主等ニ損失ヲ受シムルヲアレハ其損失ハ頭取取締役之
ヲ任スヘシ

第廿七條 紙幣贋造ノ禁令ヲ明ニス

一九七 第一節 此條例ニ遵テ國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ贋

造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造ヲ助ケ又ハ之ヲ
勸ムヘカラス贋造ト知リテ之ヲ通用セシムヘカラス

第二節 右紙幣ノ文字畫圖ヲ變換スヘカラス變換セシム
ヘカラス變換スルヲ助シヘカラス變換セシ紙幣ト知
リテ之ヲ通用セシムヘカラス

第三節 國立銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ヲ私ニ彫刻スヘカ
ラス私ニ彫刻ヲ命スヘカラス其摺立ニ用ユヘキ板版繪
ノ具及似寄ノ紙品ヲ所持スヘカラス

第四節 若右ノ數件ヲ犯ス者アレハ何等ノ人ヲ論セス國
法ニ從テ之ヲ嚴科ニ處スヘシ

第廿八條 條例更正ノコトヲ明ニス

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ何時ニテモ
此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改革シ又ハ之ヲ廢止スルコト
ルヘシ

第二節 右增補改革廢止等アレハ紙幣頭ハ速ニ其由ヲ世
上ニ公告スヘシ

右之通相定候事

明治五年八月五日

太 政 官

第三章 銀行成規
國立銀行成規

目錄

- 國立銀行創立ノ事
チンヨナルバンク
- 株金ヲ募ルノ通法
- 國立銀行定款文例
- 全 與書文例
- 銀行創立證書文例
- 請合狀ノ事同文例
- 取締役ノ事

- 取締役ノ誓詞文例
- 銀行役人ノ證書文例
- 銀行役人^{ヤシダキ}上任規則
- 上任報告^{シラセ}文例
- 國立銀行創立ニ付心得ヘキ件+
- 公債證書預ケ方ノ事
- 開業免狀ノ事同文例
- 開店ノ事
- 元金ノ事
- 元金月賦入金ノ事

元金集高届書文例

元金増減ノ事

元金増集證書文例

元金減少證書文例

發行紙幣注文ノ事

注文書文例

紙幣發行ノ事

舊紙幣燒捨并新紙幣請取方ノ事

舊紙幣ヲ差出スニ付添書文例

公債證書利息請取方ノ事

名代委任狀文例

國立銀行報告ノ事

用紙ノ事

簿冊キヨウシノ事

申合規則ツ事

申合規則文例

國立銀行ノ頭取支配人取締役等一同ノ心得トシテ申諭
ス諸件

國立銀行記錄ノ事

商業取扱ノ事

貸附金ノ事

役人ノ事

元金ノ事

諸務取扱ノ事

國立銀行成規

國立銀行創立ノ事

凡ソ銀行條例ノ規則ニ從フテ國立銀行ヲ結ハント欲スル者ハ須ラク左ノ條ヲ心得テ銀行創立ノ手續ヲナシ其

商業ヲ經營スルコトヲ謀ルヘシ

國立銀行ヲ結ハント欲スル者ハ先ツ五人以上ニテ申合セ

組合ヲ定メ連印ノ願書ヲ認メ(五人以上ノ連名ニテモ總

代ノ一印ニテモ差支ナシ)國立銀行ヲ創立致シ度趣ヲ東

京大藏省ノ紙幣頭ヘ申立ヘシ

但東京ヨリ遠隔ノ地方ハ此願書ヲ郵便飛脚便ニテ差

出シテ苦シカラス

紙幣頭ヨリ願ノ通一州一郡一地ニ於テ元金一萬圓ノ國立

銀行ヲ創立スル事ヲ許スニ付テハ銀行定款并創立證書

ヲ差出スヘシトノ指圖アルヘシ○願人等此指圖ヲ得テ

直様株金ノ募方ニ掛ルヘシ

一株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙或ハ張紙ノ類ニテ便宜ニ任セテ世上ニ公布シ州郡地ニ於テ何ヤノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ一月一日ニ街屋ニ來ルヘシ發起人何ノ誰々等ト記載シテ世人ニ通知セシムヘシ

一當日ニ至リテ右ノ街屋ニ於テ發起人等帳面ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入セント申込タル人々ノ姓名并入金スヘキ金高ヲ此帳面ニ書込ミ一月一日迄ニ入金スヘシト取定ムヘシ

X五〇

一銀行ニ加入スル入金ノ高ハ百圓ヲ以テ一株ト唱ヘ何ノ誰ハ幾株ト唱フヘシ尤株數ノ多少ハ入金人ノ望ニ任スヘシ

一入金ノ當日ニ至リテ入金人ヨリ各々書込タル金高ヲ發起人方ニ持參スヘシ原註全高ヲ入金スルトモ或ハ半高ヲ入金スルトモ先前ヨリノ約束ニ從フヘシ原註發起人ハ此入金人ニ金子引替ニテ銀行ノ株手形ヲ渡スヘシ原註百圓一株ニ付手形一枚ト定ム故ニ千圓ヲ入金シタル人ニハ株手形十枚ヲ渡ス原註於是此入金人ヲ某國立銀行ノ株主ト唱フヘシ

此書込ニテ集金ノ高發起人等ノ見込高ヨリ多キ時ハ
割引ヲ以テ入金入申出ノ高ヲ減少スルトモ又ハ銀行
ノ元金高ヲ最初ノ見込ヨリモ増加スルモ發起人ノ存
意ニ隨フヘシ

此株金募方ノ手續ハ其大要ヲ示スノミ社ヲ結フ人々
ノ便宜ニ任スヘシ故ニ紙幣頭ヨリ別ニ其規則ヲ設ケ
ス

株金ヲ募リ初ムルニハ銀行條例第二條中ノ趣旨ニ從ヒ銀
行定款ヲ三通認メ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ（原註）銀行條例
第三條中ヲ参考スヘシ

銀行定款ノ文例如左

國立銀行定款

大日本政府ノ公債証書ヲ引常トシテ紙幣ヲ發行シ之
ヲ通用シ之ヲ引替ユル儀ニ付明治五年八月五日大日
本政府ニ於テ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ基キ新ニ
國立銀行ヲ創立スル爲ニ銀行ノ株主等協議ノ上決定
スル條々如左

第一條

此銀行ノ名號ハ「國立銀行」ト稱スヘシ

第二條

此銀行ニテ諸爲替貸附金預リ金等一切銀行ニ關係ノ事務取扱所ハ一州一郡一街ニ取建ヘシ

第三條

此銀行ノ元金ハ一萬一千圓ト取定メ百圓宛ヲ以テ一株トスヘシ

但銀行條例第五條中ノ趣旨ニ從ヒ此元金ヲ増減スルヲ得ヘシ尤モ元金増減ノ節ハ株主等ハ銘々ノ株數ニ從ヒ其割合ニ准シテ増減スヘシ

第四條

此銀行ノ取締役ハ三十株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨ

リ五人以上ヲ撰舉スヘシ其撰舉ノ初集議ハ一月一日一街一トニ於テスヘシ事宜ニヨリテハ此書面ニ連名ノ株主等ノ衆議ニ從ヒ追テ其月日ヲ取定ムヘシ

第五條

取締役ヲ撰舉スヘキ定式ノ會議ハ毎年正月十一日ヲ定日トシ株主等ミナ銀行ニ集リテ議スヘシ

但當日故障アリテ集會セサル時ハ便宜他日ヲ約スヘシ尤モ此撰舉ハ右ノ條例ニ齟齬セサル様ニ取締役ノ取極メタル規則ニ從フテ之ヲ行フヘシ

第六條

取締役ノ衆議ニテ其中ヨリ一人ヲ撰ニ之ヲ頭取トナ
ス此頭取ハ規則ニ從ヒ年限中之ヲ勤ムヘシ
但頭取タル者其任ニ堪ヘサル歟或ハ取締役等ノ三
分二以上ノ存意ニ依リテ退任セシムル時ハ此例ニ
非ス

取締役等ハ又其内ヨリ副頭取一人ヲ撰舉スヘシ
但此副頭取ハ頭取欠席スルカ其他ノ事故ニ付テ其
事務ヲ代理スルマテニシテ平日勤向ハ取締役ト同
様タルヘシ

取締役等ハ又銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ支配人并ニ書

記勘定方帳面方等ノ役人ヲ撰任シ又右ノ諸役人等ノ
給料ヲ取定メ衆議ノ上ニテ銀行ノ得失ヲ考ヘ或ハ此
役人等ニ重年ヲ命シ或ハ之ヲ放免スルノ權アルヘシ
取締役等ハ又銀行ノ書記及役人等ノ職掌ヲ分課シ其
身元ノ引受人ヲ約シ罰金ヲ預定スルノ權アルヘシ
取締役等ハ又向後ノ取締役撰舉ノ法ヲ定メ此撰舉ノ
衆議ニ異論起ル時ハ之ヲ裁決スヘキ裁判人ヲ取定ム
ルノ權アルヘシ
取締役等ハ都テ銀行條例ニ從テ適任ノ職務ヲ取行フ
ノ權アルヘシ尤モ此條例ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク其銀

行ノ便益ヲ謀リ條例中ニ揭示スル諸禁令ノ條款等ハ
各相擔任シテ格護セシムルトニ注意スヘシ

但取締役等ノ失任ハ銀行條例中ノ罰令ニ從テ其責
ニ任スヘシ

取締役等ハ又銀行條例第四條ニ從ヒ銀行ノ處務ニ緊
要ナル申合セ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

此銀行ノ株主等ハ其所有ノ株高ハ全ク所持ノ財本ニ

シテ決シテ他人ヨリ借財シテ株金ヲ出セシニ非サル

旨又何等ノ事故アルトモ取締役ノ承認ヲ得スシテ其
株ヲ賣渡スヘカラサル趣ヲ申合規則中ニ記載スル事

ハ取締役等ノ權内ニアルヘシ

第七條

此銀行ハ創立證書ヲ調印シタル日ヨリ之ヲ永續スヘ

シ但シ銀行條例ニ從ヒ三分二以上ノ株主等ノ存意次

第ニ此銀行ヲ鎖ス事ヲ得ヘシ尤モ株主等ハ一同ノ利

益ヲ謀リテ銀行ヲ鎖店スルノ理アリト雖モ其手續ハ

都テ銀行條例ニ從フテ之ヲ行フヘシ

第八條

此銀行定款ハ株主等ノ衆議ヲ以テ何時ニテモ之ヲ改

正スル事ヲ得ヘシ尤モ銀行條例ニ齟齬スヘカラス

註原

(但シ改正セシ次第ヲ紙幣頭ニ届出ヘシ)
 此改正ハ取締役等或ハ株主等三人以上ニテ立議シ株
 主等一同ノ集會ヲ乞フテ決議スヘシ
 右ノ條々ヲ取極タル證據トシテ姓名ヲ記シ調印イタ
 シ候也

明治一年一月一日

株主等連名印

但此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ追テ頭取
 支配人等定マリシ上ニテ左ノ與書ヲ以テ紙幣寮ヘ差出
 スヘキトス

右ノ定款ハ二通トモ頭取并ニ支配人之ニ與書ヲ加フヘシ

其文例如左

紙幣頭ニ差出スヘキ本紙ノ與書

右一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通寫一
 通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ髓ニ之ヲ銀行ニ藏
 メ置候仍テ其保証ノ爲メ私共自ラ記名調印致候也

明治一年一月日

支配人 姓名 印
 頭取 姓名 印

紙幣御寮

銀行ニ藏メ置ヘキ扣寫ノ與書

紙幣察印

右ハ一一國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙ハ規
則ノ通り之ヲ紙幣察ニ差上候仍テ其保証ノ爲メ私共
自ラ記名調印致シ候也

明治一一年一月一日

支配人

姓名印

頭取

姓名印

右何々國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ
本察ニ受取候ニ付年號一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉
シ爰ニ紙幣察ノ官印ヲ^捺シ其事ヲ保証シ之ヲ銀行へ
交附イタシ置候也

明治一一年一月一日

紙幣頭何之誰印



株主等ハ又銀行創立證書ヲ認ムヘシ其文例如左

銀行創立證書

大日本政府ノ公債證書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之
ヲ通用シ之ヲ引替ユル儀ニ付明治五年八月五日大日
本政府ニ於テ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ基キ國立
銀行ヲ創立シ其商業ヲ經營セント謀リ此證書第四條

ニ連名シタル者共協力シテ此社ヲ結ビ左ノ創立證書ヲ取極メ候也

第一條

此銀行ノ名號ハ——國立銀行ト稱スヘシ

第二條

貸附金預リ金其他ノ業ヲ經營スヘキ此銀行ノ公店ハ——州——郡——街——ニ取建ヘシ

第三條

此銀行ノ元金ハ——萬——千圓ニテ百圓ヲ以テ一株ト定メ一株ニ分割スヘシ

第四條

此銀行ノ株主等ノ姓名宿所并ニ所持ノ株數ハ左ノ表ノ如シ

株主姓名	宿所	元金株數
誰	——州——郡——何村町	金何圓 何株
誰	——州——郡——村町	金何圓 何株
總計何人		合金——圓 株數——

第五條

此證書ハ銀行條例ニ基キ私共一同ノ利益ヲ謀ル爲ニ取極メテ右ノ證據トシテ私共一同姓名ヲ自記シ調

紙幣察割印

印イタシ候也

明治一年一月一日

株主等連名印

右何々国立銀行創立證書ハ本日株主共一同余カ眼前ニ來リ書面ノ通ニ認メタル趣ヲ正實ニ保証シ其証據トシテ余カ姓名ヲ記シ當局ノ官印ヲ鈴シ候也

明治一年一月一日

地方官員名印

地方官
廳之印

右何々国立銀行創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ本察ニ受取り候ニ付年號一月一日余ハ大藏卿ノ

五

命ヲ奉シ爰ニ紙幣察ノ官印ヲ鈴シ其事ヲ保証シ之ヲ銀行へ交附イタシ置候也

年號一月一日

紙幣頭何之誰印

官印

此創立證書ハ国立銀行ヲ結フニ付政府ト其銀行トノ約定書ニ比シキ大切ノ書面ナリ又銀行定款ハ全ク銀行組合ノ取極ナレハ政府ニ關係アルニ非ス株主等ハヨク此別ヲ心得ヘシ

此創立證書銀行定款トモ紙幣頭之ニ與書官印ヲ加ヘテ銀行ニ渡シ銀行ニテ之ヲ藏メ置クヘシ

附請合狀ノ事

國立銀行ヲ結ハント欲スル者前文ノ手續ニナスヘキ事
 相當ノ儀ナレトモ身許問合セ等ニ時日ヲ費スノ患アリ故
 ニ願人等ノ身許ヲ請合ヒタル請合狀ヲ紙幣頭ニ差出ス
 ヘシ此請合狀ハ其地方ノ高官ニテモ又ハ有名ナル庶人
 ニテモ差支ナシ
 願人等ハ銀行創立ノ願書ト右ノ請合狀ト前文ノ銀行定
 款ト三通ヲ一時ニ紙幣頭ニ差出スヘシ然ル時ハ手數ヲ
 省キ開業ノ期モ自カラ速ナルヘシ
 但シ此事ハ銀行ヲ結フヘキ輩ノ便宜ニ任スヲナレハ

可成丈本式ノ手續ヲナサハ猶適正ナルヘシ

請合狀文例

一州一郡何處ニ於テ銀行創立ノ儀ヲ一州一地方何ノ誰
 一州一地方何ノ誰何ノ誰願出ニ付右ノ者共身元富實ニ
 シテ從來ノ營業正シク右銀行創立ヲ發起スルニ相當
 ナル儀ハ私從來詳知罷在候間御差許有之候テモ決シ
 テ御差支ノ儀無御座候依之請合狀差上候也

年號一月一日

何之誰印

紙幣御寮

取締役之事

銀行ノ株主等ハ一同ノ集議ニヨリテ取締役ヲ撰舉スヘシ
 註原(撰舉ノ月日場所ハ銀行定款ノ條中ニ記載シタリ)
 右ノ撰舉ニ應シタル取締役ハ直チニ誓詞ヲ認メ遲滯ナク
 之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其寫ハ銀行ニ藏メ置ヘシ其文例
 ハ即チ如左

頭取取締役ノ誓詞

一州一郡一街一國立銀行ノ取締役何之誰謹テ左ノ
 條ヲ誓フ
 私儀ハ一州ノ民籍ニテ一州一郡一街ニ居住イタスニ
 相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私共關係ノ職掌ハ謹直
 ニ取扱フヘキ事
 當銀行創立ニ付銀行條例ノ趣意ハ一箇條タリモ決シ
 テ犯ス間敷又他人ヲシテ犯サセ間敷事
 條例ノ趣意ニ從ヒ私儀當銀行ノ株高帳ニ書込タル通
 元金中ノ三十株ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違ナキ事
 右ノ株ヲ質入致シ或ハ借財ノ引當ニ向ケ置フハ決シ
 テ不致候也

某州某府縣某銀行取締役何ノ誰印

明治一十年一月一日書面ノ者余カ眼前ニ於テ調印シ誓

ヲ致シ候也

地方官
之印

地方官員名印

但此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ

右ノ取締役ニ撰舉セラルヘキ人ハ元金ノ三十株ハ是非
自力ニテ所持スヘシ但株主等ノ中ニ適當ノ人オアリテ
一同ノ衆議此人ヲ撰フト雖モ右ノ三十株ニ不足ナル故
ヲ以テ取締役ニ舉ガタキ時ハ其人ヲシテ三十株丈ニ増
株ヲナサシメテ後ニ改テ取締役トナスヘシ

右ノ取締役ヲ撰舉シ畢ラハ此撰舉ニ應シタル取締役等ノ
衆議ニテ其内ヨリ一人ヲ撰ミテ頭取トナスヘシ又支配

人ヲ撰シテ之ヲ命シ書記其外ノ役人ヲモ命スヘシ原註
(支配人ハ銀行ノ商業ヲ處分スル重任ナレハ須ラク熟練
ノ人ヲ撰フヘシ他人ヲ雇入テモ差支ナシ決シテ株主ノ
内ヨリト限ルニ非ス)

銀行ノ株主等銀行條例ノ割合ニ從ヒ追々ト元金ヲ入金シ
其集リ高元金ノ五割原註(拾萬圓ノ元金ナラハ五萬圓ニア
タルナリ)ニ至ラハ頭取或ハ支配人并ニ取締役連印ノ証
書ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ即チ如左

銀行役人ノ証書

大日本政府ノ公債証書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之

ヲ通用シ之ヲ引替ユル儀ニ付明治五年八月五日大日本政府ニ於テ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ基キテ新ニ創立シタル州郡ノ一国立銀行ノ頭取支配人取締役謹テ左ノ條ヲ保證ス

當銀行永久ノ元金トシテ一萬一千圓ノ高ハ既ニ株主等ヨリ之ヲ當銀行ニ入金イタシ候事取締役等ノ宿所并ニ株數ハ左ノ表ノ通ニ相違ナキ事

株數	宿所	取締役姓名

當銀行ハ開業ノ免許ヲ得ヘキ前ニ履行スヘキ條々ハ銀行條例ヲ遵奉シ一々之ヲ取行ヒタルニ相違無之候也

年號 月 日

支配人 姓名 印

取締役 姓名 印

姓名 印

姓名 印

頭取 姓名 印

紙幣御寮

此書面ニ調印スヘキ取締役ハ三人以上ノ連印ニテ差支

ナシ

國立銀行役人上任規則

大藏省 紙幣寮

明治一年一月一日

各國立銀行并ニ當紙幣寮トノ往復其外ニ謬誤ヲ生
 セサラソニハ諸銀行ノ役人等轉任ノ度毎ニ之ヲ當
 寮ニ報告スルコトヲ緊要ナリトス銀行新任ノ役人等
 ノ調印ニテ書面ヲ差出ス時當寮ニ於テ其役人ノ姓
 名ハクシ押印鑑ヲ知ラス又上任ノ事ヲ知ラスシテハ大
 ニ不都合ヲ生スヘシ於此左ノ規則ヲ履行セシム

一 諸國立銀行ヨリ當寮ニ差出スヘキ諸書面ニ調印ス
 ヘキ銀行役人ノ姓名華押印鑑ヲ前以テ當寮ニ報告
 ナキ時ハ一切其役人ノ調印シタル書面ヲ取用ヒサ
 ルヘシ

一 當寮ヨリ諸銀行ヘ達スヘキ書面ハ上任ノ報告ヲ以
 テ承知シタル役人ヘ向テ達スヘシ

一 上任ノ報告ハ他ノ報告書ト體裁ヲ異ニシ銀行ノ印
 ヲ加ヘ可成ハ前任新任ノ兩印ヲ備フヘシ

一 上任ノ報告ハ左ノ書體ニ從ヒ一様ナルコトヲ良トス
 ヘシ

一州一郡一國立銀行

明治〇年〇月〇日

當十月〇日何ノ誰儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何
ノ誰儀ハ支配人ニ命セラレ其華押印鑑ハ別紙ノ通
ニ候也

元頭取	何之誰印
元支配人	何之誰印
銀行ノ印	
新頭取	何之誰印
新支配人	何之誰印
紙幣御寮	

用紙美濃堅七寸幅二寸

干支一月一日何之誰代リ
 何役選舉
 銀行ノ印印鑑
 宿所小印
 何之誰華押
 支一歲

國立銀行創立ニ付心得ヘキ件々如左

- 一 銀行條例第二條ニ記載シタル如ク凡ソ新創ノ銀行ノ社
アラタニハシメタ 號ハ紙幣頭ノ承認ヲ得テ之ヲ通稱トナスヘシ銀行ヲ新
キトメ 創セント欲スル發起人ハ預シメ其社號ヲ選ニ證書類ヲ
 差出ス前ニ其社號ヲ紙幣頭ニ伺フヘシ
- 一 銀行定款并ニ創立證書ニ名印スル輩ハ姓名ヲ正記シ其

一 實印ヲ押スヘシ

一 創立證書ニハ必ス地方官ノ與書與印ヲ具スヘシ此地方官ハ地方官廳或ハ官廳ノ記録局ノ類ナリ須ラシ府縣諸廳ノ定則ニ從テ其與印ヲ受クヘシ

一 銀行定款ノ本紙并ニ扣トモ株主等ノ總連名ニテ頭取支配人等二通共ニ與書ヲナスヘシ尤モ其文例ハ既ニ前ニ詳ナリ

公債證書預ケ方ノ事

國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニキヤイ原記名ナラカキタル註(若シ空名ナレハ出納察ニテ記名ニ引替ヲ願フヘシ)ノ公債證書ヲ出納頭

ニ預クヘシ是ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ引當ナレハ其銀行ノ元金高ノ十分六ニシテ即チ銀行ニ受取ヘキ紙幣ト同様ノ員額カタルヘシ原註(銀行條例第六條中ノ數節ヲ參考スヘシ)

此公債證書ノ裏面ニハ銀行ノ頭取支配人ノ裏書ヲ加ヘ此公債證書ハ信ヲ表スル爲ニ銀行ヨリ出納頭ニ預ケ其受取證書ヲ乞得ヘシ

此公債證書ヲ差出スニハ遠隔ノ地ハ郵便コウ便ビヲ以テ送ルトモ差支ナシ〇出納頭ハ公債證書ヲ落手シ直ニ假請取書ヲ其銀行ヘ渡シ追テ紙幣頭連名ノ本請取書ヲ渡スヘ

開業免狀ノ事

銀行創立證書定款等ノ手續相濟銀行諸役員ヲ撰任シ各株主等ハ定規ノ入金ヲナシ銀行條例ノ趣意ヲ悉ク履行シタル證據ヲ得ハ紙幣頭ヨリ改メテ開業免狀ヲ其銀行ニ渡スヘシ原註銀行條例第三條此免狀ヲ得タルヲ銀行ヨリ六十日間ハ世上ニ公布スヘシ

大藏省 紙幣寮 第一千一百一十番

明治一年一月一日

開業免狀

五二

某州一郡一地方ノ一國立銀行ヨリ差出タル證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ノ公債證書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引替ユル儀ニ付明治五年八月五日大日本政府ニテ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ從テ創立シ其開業前ノ手續ハ都テ此銀行條例ノ規則ヲ履行シタルヲ分明ナルニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今銀行條例ニ從テ銀行ノ業ヲ營ム事ヲ許可スルモノ也

右ノ證據トシテ明治一年一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ爰ニ姓名ヲ自記シ官印ヲ鈐スル也

年號一月一日



紙幣頭何之某印

開店ノ事

銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得タル上ニテ銀行條例ニ許シタル
通りニ其業ヲ經營スルコトヲ得ヘシ右ニ付火盜ノ難ヲ防シ
コトヲ第一ニ心掛ケ堅固ナル石庫ヲ取建テ又帳面勘定向ヲ
嚴密ニナシ何時ニテモ紙幣頭ヨリ達シ次第ニ報告ヲ差出
スニ差支ナキ様ニ心掛ヘシ

元金ノ事

凡ソ国立銀行ハ人口十萬人以上ノ地ニ於テハ五十萬圓以
下ノ元金ニテハ創立スルヲ許サス尤モ十萬人未滿一萬
人以上ノ地ナラハ二十萬圓ノ元金ニテ取建ルコトヲ得ヘ
シ

但一萬人未滿三千人以上ノ地ナラハ大藏卿別段ノ詮
議ヲ以テ五萬圓マテノ元金ニテモ取建ルヲ許スコト
ルヘシ

元金月賦入金ノ事

国立銀行ノ元金ハ開店前ニ是非其半高ヲ株主等ヨリ銀
行ニ入金シ殘リノ半高ハ之ヲ五ツニ割り毎月之ヲ入金

スヘシ假令ハ

某銀行元金十萬圓

正月十五日開店迄ニ入金高

五萬圓

二月十五日迄ニ入金

壹萬圓

三月十五日迄ニ入金

壹萬圓

四月十五日迄ニ入金

壹萬圓

五月十五日迄ニ入金

壹萬圓

六月十五日迄ニ入金

壹萬圓

計拾萬圓

右ノ如ク開店ノ日ヨリ算シテ一ヶ月毎ニ入金スヘシ尤モ

六ヶ月前ニ入金シ畢ルハ勝手タルヘシ開店ノ時ニ總高
ヲ盡ク入金スルハ最上タルヘシ

但此入金十分ノ六ハ金札ニテ出納寮ヘ納メ公債證書
ヲ得更ニ其公債證書ヲ預ケ紙幣ヲ受取ルノ手續タル
ヘシ

右ノ月賦ヲ株主等ヨリ入金シ銀行ノ元高増加スルニ付其
元金ノ實額ト紙幣寮ノ計帳高ト相違ナカラシメテ事務
トスヘシ故ニ元金ノ月賦入金濟迄ハ毎月其銀行ヨリ元
金集高届書ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例即チ如左

元金集高届書

何州一銀行

一州一郡一ノ国立銀行ノ元金トシテ一萬一千圓ノ
第一回月賦ヲ株主等ヨリ銀行ニ入金イタシ是迄ノ入
金ニ加算シ總高一萬一千圓ト相成候也

明治一年一月一日

支配人

誰印

頭取

誰印

銀行
印

紙幣御察

元金増減ノ事

国立銀行ノ元金ハ株主等ノ存意ニヨリテ増加スルヲ得
ヘシト雖モ紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ其手續ニ取掛ル可

紙幣察割印

ラス故ニ銀行ノ株主等若シ元金増ヲナサント決議セハ
其趣ヲ前以テ紙幣頭ニ申立テ其許可ヲ得テ元金増集ノ
手續ニ取掛リ其增高入金濟ノ上銀行ヨリ紙幣頭ニ元金
増集届書ヲ差出スヘシ其文例左ノ如シ

元金増集證書

一州一ノ国立銀行

何州一郡一地	元金何圓	合何圓
何之誰	増金何圓	此株何程
合元金 増金		總合 此株

右ハ株主三分二以上ノ存意ヲ以元金増加現額書面ノ
通相違無之候也

明治一年一月一日

支配人

何ノ誰印

頭取

何ノ誰印

銀行
紙幣御寮

右之通相違無之候也

地方官
地方官員印

右ハ銀行元金増集證書ヲ差出スニ付年號一月一日
日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ割印ヲ加ヘ之ヲ保證スル也
ウケアヒシシヨウコトナレ

年號一月一日

証印

紙幣頭何之誰印

右之書面ヲ差出サハ奥書ヲ與フヘシ銀行ハ此奥書ヲ得テ
ル上ニテ公債證書ヲ預ケ通用紙幣ヲ請取ル手續ニ取掛
ルヘシ

國立銀行ハ又其元金ヲ減少スルヲ得ヘシト雖モ紙幣頭
ノ承認ヲ得サレハ其手續ニ取掛ルヘカラス銀行ノ株主
等若シ其元金ヲ減少セント決議セハ其趣ヲ紙幣頭ニ申
立其許可ヲ得テ減少ノ手續ニ取掛ルヘシ
但此減少ハ銀行條例ノ元金高定規ヨリ減スルヲ許サ

ス

減少ノ手續ハ其發行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ燒捨
 ノ手續ヲナシ其高丈ケノ公債證書ヲ出納頭ヨリ紙
 幣頭ノ手ヲ經テ取戻スヘシ又準備金モ之ニ准シテ
 減少スヘシ

右減少濟ノ上銀行ヨリ元金減少證書ヲ差出スヘシ其文
 例如左

紙幣

元金減少證書		何州——銀行	
何州——郡——地	現額	外減少高	
何ノ誰	元金——圓	金何圓	

割察印

右者株主三分二以上ノ存意ヲ以テ元金減少高并殘現
 額共書面之通相違無之候也

明治——年——月——日

支配人——印

銀行ノ印 紙幣御寮

頭取——印

右之通相違無之候也

地方官ノ印

地方官員ノ印

右者一銀行元金減少証書差出スニ付年號一月一日
 余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ割印ヲ加ヘ之ヲ保證スル也
 明治一年一月一日
 紙幣頭何之誰印



右増減證書ハ本紙寫ニ通テ紙幣寮ニ出シ其寫ヘハ前ノ文
 例ノ如ク紙幣頭ノ奥書鈐印アルヘシ

發行紙幣注文ノ事

國立銀行ヨリ公債證書ヲ預ケ本請取書ヲ落手セハ其銀行
 ヨリ發行スヘキ紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書
 ヲ以テ紙幣頭ニ申立ヘシ其文例如左

但銀行條例第八條ノ第三節ヲ參覽シテ此注文書ヲ出
 スヘシ

注文書

一州一郡一ノ一國立銀行ニ於テ銀行條例ニ從ヒ
 一萬一千圓ノ紙幣ヲ發行イタシ度ニ付左ノ目錄ノ
 通ニ御渡被下度候也

紙幣名稱	員數	金高
壹圓	枚	圓
貳圓		
拾五圓		

右發行紙幣ノ引當トシテ出納頭ニ預ケタル公債證書ノ現額ハ如左

		五百 百圓
合 枚		
合 圓		

右ノ趣謹テ奉願候也

			公債證書種類
		分	利息
		分	金高
合 金			

紙幣頭ハ右ノ注文書ノ通りニ紙幣ヲ製造シ大藏卿其他ノ官印并番號ト銀行ノ番號トヲ兩ナカラ押シテ銀行ニ渡スヘシ

銀行ハ之ヲ受取リテ後受取證書ヲ出スヘシ其文例左ノ如シ

銀行 ノ印	紙幣御寮	明治一年一月一日	——國立銀行 支配人——印
			頭取 —— 印

紙幣受取證書

紙幣名稱		員數		金高	
壹圓	枚				
圓	枚				
合枚		合金		圓	

右ハ當一銀行發行紙幣ト正ニ請取候也

年號 一月一日

支配人

印

銀行ノ印

頭取

印

紙幣御寮

紙幣發行ノ事

X五三

國立銀行ニテ前文ノ紙幣ヲ落手セハ頭取支配人ノ兩人一
 ヲ紙幣ノ表面ニ其銀行ノ証印ヲ押シ書込ヲナシテ後之
 ヲ世上ニ發行スヘシ若シ押シ損シ等アラハ其趣ヲ紙幣
 寮ニ申立廢紙幣ヲ納メテ引替ヲ乞フヘシ

但其銀行ノ印類離形ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其節印肉
 ハ紙幣寮ヨリ之ヲ渡スヘシ
 舊紙幣燒捨并新紙幣請取方ノ事

國立銀行ヨリ發行シタル紙幣追々ト手摩レ其紙面垢付キ
 或ハ糜爛敗裂ニ及ハ、之ヲ取戻シ兼テ紙幣頭ノ定メテ
 ル舊紙幣燒捨ノ條規ニ從ヒ之ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ其

時頭取支配人ヨリ一書ヲ添フヘシ其文例如左
但押印書込等ノ節押損シ又ハ書損セシ紙幣モ此例ヲ
以テ申立ヘシ

一州一郡ハ一ノ一ノ国立銀行本日何ヤ一便ヲ以テ當
国立銀行ヨリ發行ノ紙幣中敗裂ノ分一萬一千一百圓
ヲ差出候其目錄ハ即如左

紙幣ノ名稱	員數	金高
壹圓	枚	圓
貳圓		
五圓		
拾圓		

貳拾圓	五拾圓	百圓	五百圓	合	合

右ハ當銀行發行紙幣ノ内敗裂等ニテ通用難相成分書
面之通差上候處相違無之候
右ノ敗裂紙幣ハ御條例ノ通燒拾ノ立合可致候尤モ燒
捨濟ノ上右ノ金高ヲ新紙幣ニテ御渡シ可被下候此段
奉願候也

一ノ一国立銀行
支配人

明治十一年一月一日

頭取

國立銀行

印

印

紙幣御寮

紙幣寮ニテ右ノ敗裂紙幣ヲ請取ラハ代リ新紙幣ヲ銀行ニ
遣スヘシ

銀行ハ又燒捨ノ立合人ヲ東京ニ於テ兼テ頼置クヘシ紙幣
寮ニテ燒捨ノ節ハ其立合人ニ通達アルヘキニ付其者紙
幣寮ニ至リ諸寮ノ立合ト共ニ燒捨所ニ立合ヒ實驗ノ上
ニテ燒捨證書ニ調印スヘシ尤此燒捨證書ハ二通ニ認メ

本紙ハ紙幣寮ニ藏メ扣ノ方ハ之ヲ銀行ニ藏ムヘシ原註
行條例第八條

右ノ立合ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰テ銀行ヨリ差出ス
ヘシ

國立銀行ヨリ差出タル敗裂紙幣ノ引替并ニ燒捨ノ
條規

第一條

國立銀行ヨリ引替ノ爲ニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂紙幣ハ
五百圓以上ノ高タルヘシ尤百圓宛ヲ一包トナスヘシ

第二條

敗裂紙幣ハ消印ヲ押シ名稱ヲ分チテ之ヲ別トシ東子其上
ニ高ヲ記シ目錄ヲ添紙幣寮ニ差出スヘシ
右ノ通ニ致サレハ紙幣アラハ之ヲ當寮ヨリ其銀行ニ差戻
スヘシ
切トシ敗裂シタル紙幣アラハ銀行ノ役人之ヲ集メテ糊附
ニナシテ之ヲ差出スヘシ

第三條

敗裂シタル紙幣ヲ其銀行ニ持參スル人アラハ銀行ノ役人
ハ能ク其金高ヲ記シタル名稱ノ所ヲ改メ之ヲ引替ヘ遣ハ
スヘシ假令敗裂シタル紙幣ノ切ニ不足アルハ大藏卿印章

アラハ之ヲ引替ユヘシ

此紙幣引替ニ付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

公債證書利息請取方ノ事

國立銀行ヨリ出納頭ニ預ケタル公債證書ノ利息請取方ノ
儀ニ付テハ備遠ノ地ニ創立スル銀行ハ云ニ及ハス府下

カダヨリテトヲキ

ノ銀行タリハ名代人ヲ命シテ其利息ヲ出納頭ヨリ請取
ラシメテ差支ナシ尤モ此名代役ノ姓名印鑑及其名代ヲ
命セシ趣ヲ其銀行頭取支配人ヨリ書面ヲ以テ出納頭并
紙幣頭ニ差出スヘシ

右ノ預ケタル公債證書ノ利息ハ盡ク東京ニ於テ拂フヘシ

公債利息拂ノ期月ニ至ラハ銀行ノ頭取ハ名代人ニ委任狀ヲ渡スヘシ此委任狀ヲ持參シタル名代人出納寮ニ至リテ此委任狀ヲ示ス時ハ出納頭其社號等ヲ引合セ公債ノ金高ニ應シテ歩合ノ利息ヲ其者ニ渡スヘシ此委任狀ノ文例ハ即如左

名代委任狀

私儀此銀行ノ頭取タルヲ以テ右ノ權ヲ奉戴シ茲ノ(何地何街何丁目何之誰)ヲシテ此銀行ノ名代人ヲシメ此銀行ヨリ出納頭ニ預ケ置タル公債證書ノ利息ヲ請取ヘキヲ命ス

國立銀行報告ノ事

國立銀行ハ一ケ年中四度以上其銀行營業ノ實際報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ原註(銀行條例第十二條)此報告離形并ニ

銀行ノ印

明治一一年一月一日

國立銀行頭取

印

此名代人ハ即チ此銀行ノ名代ナレハ利息請取方ニ付テハ諸事其權内ニアルヘシ右ノ證據トシテ私ノ姓名ヲ記シ社印ヲ加ヘ候也

文例ハ紙幣頭ノ定メタル體裁ニ從フヘシ
此餘ノ諸報告ニ付紙幣頭ヨリ兼テ觸置タル報告書面ノ覺

書アリ銀行ハ須ク此覺書ヲ用所ノ壁上ニ掲ケ置ヘシ
銀行條例ノ趣意ヲ履行シ諸國立銀行ヨリ可差出報告

并ニ書面ノ覺
紙幣頭ニ可差出報告

第一銀行實際報告

是ハ毎年四度以上紙幣頭ヨリ達シタル日限マテノ商
業ノ模様ニ付其實際ヲ記シ右ノ達ヲ落手シタル日ヨ
リ十日ノ内ニ差出スヘシ

報告ノ文例ハ紙幣察ヨリ發行シタル印紙ノ例ニ從フ
ヘシ

第二銀行實際別段報告

是ハ紙幣頭ノ考察ニテ某國立銀行實際ニ付尙明細ノ
情實ヲ知ルコトヲ緊要ナリトセハ其銀行ヲシテ此報告
ヲ差出サシムヘシ尤モ其銀行ハ右ノ達ヲ落手シタル
日ヨリ十日ノ内ニ差出スヘシ

第三銀行利益金割合報告

是ハ銀行ニ於テ當年ノ利益金ハ元金一株ニ付何圓何
錢ノ利益アリト云フ割合且右割合ノ内ニテ銀行積立

金高ヲ分記シ全ク株高へ分割スヘキ高ヲ現ハシ株主一同へ公告ヲナシタル日ヨリ十日ノ内ニ紙幣頭ニ差出スヘシ

第四銀行實際報告刊行見本

是ハ銀行ニ於テ實際報告ヲ世上へ刊行公告スル時ニ其刊行見本ト共ニ上木ノ奥書ヲ添實際報告ヲ差出タル日ヨリ後可成丈ケ急速ニ差出スヘシ

第五株主姓名表

是ハ銀行ノ株主等銘々ノ姓名宿所并ニ所持ノ株數ヲ一々記載シ毎年十二月十日ニ差出スヘシ

〔改〕布告第六年十二月三日 國立銀行條例成規中紙幣頭ニ可差出報告ノ條第五節第十一節左ノ通改定候條此旨布告候事

第五株主姓名表

是ハ銀行ノ株主等銘々ノ姓名宿所并ニ所持ノ株數ヲ一々記載シ毎年一月十日迄ニ差出スヘシ

第六頭取々締役誓詞

是ハ銀行ニテ頭取々締役ヲ撰舉シ之ヲ命シタル度毎ニ其人ニ誓詞ヲ記サセ直ニ之ヲ差出スヘシ

第七銀行役人上任報告

是ハ銀行ノ頭取并ニ支配人ヲ撰舉シ之ヲ命シタル度
毎ニ上任規則ニ從テ速ニ之ヲ差出スヘシ

第八銀行元金増減申立

是ハ元金増減ノ儀ヲ紙幣頭ニ申立其承認ヲ得テ後ニ
増減ヲ實地ニ取行フヘシ原註(銀行條例第五條ヲ參考ス
ヘシ)

第九銀行鎖業并ニ分散ニ付株主等見込申立

是ハ銀行ヲ鎖シ或ハ銀行ヲ分散スルコトニ取掛ル前直
ニ之ヲ差出スヘシ原註(銀行條例第十九條ヲ參考スヘシ)
第十鎖店或ハ分散申立刊行見本

是ハ鎖店又ハ分散ノ事ヲ世上ヘ刊行公告シテ後可成
丈速ニ差出スヘシ原註(銀行條例第十九條ヲ參考スヘシ)

第十一發行紙幣平均高并ニ準備金預リ金平均高申立原註(但

一ヶ年半年平均)

是ハ毎年七月十二月十日迄ノ内ニ差出スヘシ

但右ノ外銀行日々出納計算表ハ銀行條例第十二條
ノ第三節ニ從ヒ原明瞭ニ之ヲ作り置キ紙幣頭ノ指圖
ニ從テ差出ス可シ

右ノ規則ニ從テ諸國立銀行ヨリ諸報告并ニ申立ノ書
面ヲ差出スヘシ且ツ心得トシテ此覺書ヲ銀行ノ壁上

ニ掲ケ置ヘシ

(改)布告(六年十二月三日略ス(前ニ出ス))
第三百九十八號

第十一發行紙幣平均高并ニ準備金預リ金平均高申立
原註

(但一ヶ年半ヶ年平均)

是ハ毎年七月一月十日迄ニ差出スヘシ

用紙ノ事

國立銀行ヨリ可差出銀行定款創立証書取締役誓詞實際報
告等ノ如キ諸書類ノ紙幅并ニ體裁共都テ一様ナランコ
ヲ要トシ紙幣寮ニテ皆之ヲ上木シタリ故ニ銀行ハ創立
ノ初メニ此紙類ノ印紙ヲ紙幣寮ヨリ申受テ用フヘシ若

X五四

シ用ヒ畢ラハ幾回モ申受テ之ヲ用ユヘシ但豫メ其社ノ
入用ヲ見積リ前以テ其銀行ヨリ申立ヘシ

銀行諸簿冊ノ事

銀行諸簿冊ハ紙幣寮ニテ定メル書式ニ從ヒ一様ノ手續ニ
テ之ヲ記載シ出納合計差引等ヲ精確ノ勘定ヲナシ明瞭ニ
之ヲ記入スヘシ

但此簿冊ハ預メ入用ヲ測リテ銀行ヨリ紙幣寮へ申立成

冊ヲ申受テ之ヲ用ユヘシ

申合セ規則ノ事

國立銀行ヲ創立スル上ハ取締役等ノ衆議ニテ其社中申合

セ規則ヲ取定ムヘシ尤社中ノミノ申合セニテ公然タル
法則ト見做ヘキニ非レハ之ヲ紙幣頭ニ差出スニ及ハス
故ニ條中ノ増減モ衆議ニ任セテ差支ナシ但シ銀行條例
ノ趣意ニ違背セサル様ニ心掛ヘシ

今茲ニ申合セ規則一般ノ文例ヲ左ニ掲ク

但銀行條例第四條中ノ趣旨及銀行役員ノ給料褒貶ノ手
續其他ノ要件ヲ參考シテ可成丈詳細ニ諸事ヲ申合セテ
之ヲ取定ムヘシ

一州一郡一ノ一國立銀行申合規則

取締役撰舉ノ事

第一條

當國立銀行ノ株主等ノ集會ニテ新取締役ヲ選舉スル
トハ毎年正月十一日朝第十字ヨリ第四字迄ノ間ニ當
銀行ニ於テ之ヲ行フヘシ尤此集會ノ日限趣意柄ハ一
ケ月前ヨリ當銀行ノ頭取支配人之ヲ公布スヘシ
取締役等ハ又此集會ノ一ケ月前ニ株主等ノ内ヨリ三
人ヲ選ミテ之ヲ撰舉シ裁判役ト定メ置ヘシ此裁判役
ハ撰舉ノ議論ヲ決斷シタル上ニテ其撰舉ノ始末並ニ
撰舉シタル新取締役ノ姓名ヲ頭取支配人ニ報告スヘ
シ

第二條

頭取支配人ハ右ノ裁判役ヨリ撰舉ノ報告ヲ得ハ直ニ
此事ヲ當銀行ノ日記ニ録シ右ノ撰舉ニ應シタル新取
締役ニ通達シ當銀行ニ於テ集會アラシコフ申込ムヘ
シ

此集會ノ當日ニ至リテ右ノ取締役等過半出席セサル
時ハ追テ過半ノ人員出席スル迄會議ヲ延スヘシ

第三條

毎年撰舉ノ定日ニ當リ故障アリテ集會スルコト得サ
ル時ハ其事故ヲ公布シ追テ集會ノ日限ヲ定ムヘシ但

シ裁判役ノ撰舉裁判役ノ報告新取締役ノ選舉等ハ都
テ此規則ノ第一條第二條ニ從フヘシ
銀行役人ノ事

第四條

當銀行ノ役人等ト稱スルハ

取締役 凡五人

内頭取 壹人

支配人 壹人

勘定方 壹人

帳面方 壹人

書記役等都テ銀行ノ業體取扱ニ關係シタル人々ヲ云ナリ

第五條

當銀行ノ頭取ハ退役轉役トクニユル放免ノ外ハ奉職年限中必ス勤仕スヘシ

若シ取締役或ハ頭取欠員ノ時ハ取締役ノ衆議ヲ以テ代任カウシヤ權任ノ者ヲ命スヘシ

第六條

支配人并ニ以下ノ役人等ハ取締役ノ衆議ニテ命シタル年限中奉職スヘシ

第七條

支配人ハ當銀行ノ有金積金其餘大切ノ物品ヲ預リ其責ニ任スヘシ又頭取取締役ノ差圖ニ任セ或ハ其差圖ヲ受タル人ノ沙汰ニ任セテ之ヲ出納スヘシ

第八條

頭取ハ銀行ノ事務全體ヲ注意シテ總テ其責ニ任スヘシ然レトモ新ニ一事ヲ定メ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及定例ナキ出納ノ事等ハ取締役ノ協議ニ非サレハ之ヲ決スヘカラス

第九條

勘定方ハ支配人其外ヨリ時々引渡シタル金銀並諸物
品ヲ受持チテ其責ニ任スヘシ又取締役ノ差圖ニ任セ
或ハ其差圖ヲ受タル人ノ沙汰ニ任セテ之ヲ出納スヘ
シ

第十條

當銀行ノ諸役人等ハ其職務ヲ廉直ニ勤ムルコノ證據
トシテ奉職ノ節愼ナル請人兩人以上ヨリ身許請狀ヲ
取締役ニ差出スヘシ若シ此役人等ニ過失アラハ取締
役ハ其請人ニ迫リテ相當ノ罰金ヲ當人ヨリ取立テ以
テ當銀行ノ損耗ヲ償フヘシ

但此役々ヨリ可成丈ハ奉務中ノ證據金トシテ相當
ノ公債證書其他ノ証券ヲ預リ置ヲ最上トス
社印ノ事

第十一條

取締役ノ衆議ニテ決定シテ採用シタル當銀行ノ印章
ハ即チ如左

一寸八分四方



外ニ合印渡濟請取等ノ小印アルヘシ

地面家庫讓渡ノ事

第十二條

地面田畑山林家屋土藏ノ類ヲ引取リ或ハ讓渡ス節ハ當銀行ニ於テハ取締役ノ協議ニ從ヒ社印ヲ押シテ取扱ヒ頭取支配人ノ中ニテ之ニ調印スヘシ

元金増ノ事

第十三條

當銀行ノ定款ニ從ヒ元金ノ高ヲ增加セント衆議ニテ決定スル時ハ頭取ト取締役ヨリ株主等ニ増株書込ノ事ヲ通スヘシ

元金増ノ節ハ株主等ハ銘々ノ株數ニ應シテ新規ノ増株ヲ所持スルノ權アルヘシ
若シ株主等ノ中ニ此増株ヲ書込ムコトヲ怠ル者アラハ頭取ト取締役ハ衆議ニテ此殘株ノ處置ヲナスヘシ

銀行業體ノ事

第十四條

一般ノ祝日并ニ休日ノ外ハ當銀行ハ毎朝第一字ヨリ夕第一字迄ノ間商業ヲ取扱フヘシ
當銀行ノ取締役ノ内一人ニテ別ニ爲替掛ヲ勤ムヘシ
此者ハ頭取支配人ニハカリ詢リ諸爲替手形并ニキアヘセ證券類ノ取

引賣買ノ差圖ヲナシ定式ノ集會毎ニ其取扱振ヲ取締
役一同ニ報告スヘシ尤此爲替掛ノ取締役ハ六ヶ月毎
ニ撰舉ニテ交代イタスコアルヘシ

記録ノ事

第十五條

當銀行ノ創立證書定款并ニ取締役撰舉ノ儀ニ付裁判
役ヨリ差出タル報告或ハ取締役定式ノ集會臨時ノ會
議等都テ當銀行ニ關係ノ書類ハ之ヲ記録ニ綴込ミ頭
取ツノ末尾ニ調印シ支配人之ニ連印シ之ヲ後日ノ證
據ニ藏置ヘシ

株讓渡ノ事

第十六條

當銀行ノ株ハ銀行條例ノ趣意ニ從ヒ當銀行ノ元帳ニ
引合セタル上ニテ讓渡スコヲ得ヘシ此元帳ハ諸株證
券ノ賣買ヲ取扱フ所ニ備ヘアルヘシ
當銀行ノ株ハ頭取ト締役ノ許可ヲ得サレハ之ヲ他人
ニ讓渡スヘカラス

此株讓渡ノ儀ハ取締役ノ許可ヲ得銀行ノ元帳ニ引合
セタル上ハ何時タリトモ差支ナシ尤モ其株手形ノ書
替ヲナサトル時ハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新

故ヲ論セス其株ノ名前人ニ渡スヘシ

第十七條

當銀行ノ株手形ニハ頭取并ニ支配人之ニ調印シ此株
ハ銀行ノ元帳ニ引合セノ上之ヲ讓渡スコヲ得ヘシト
記載スヘシ

此株讓渡ノ節ハ株手形ヲ元株主ヨリ銀行ニ請取り改

メテ新株手形ヲ新株主ニ相渡スヘシ

銀行ノ入費ノ事

第十八條

當銀行日用ノ雜費ハ支配人之ヲ仕拂毎月毎年遺拂明

細帳ヲ頭取ニ差出シ頭取檢印ノ上取締役ヘ廻スヘシ

約定ノ事

第十九條

諸約定書類手形類并ニ請取書類ニハ當銀行ノ頭取支
配人ノ内ニテ之ニ調印スヘシ

檢査ノ事

第二十條

取締役ハ三ヶ月毎ニ其内ヨリ一人ヲ撰舉シテ檢査役
メラシムヘシ此檢査役ハ當銀行ノ有高ヲ計算シ勘定
ノ差引ヲ改メ諸帳面ノ締高等ノ正直ナルヤ否ヲ檢査

シ又當銀行商業ノ實際性ニ立行クヘキヤ否ヲ検査シ
其顛末ヲ集會ノ節取締役一同ニ報告スヘシ

集會ノ事

第二十一條

取締役其外ノ役々定式ノ集會ハ毎月一日タルヘシ
臨時ノ集會ハ頭取或ハ支配人ヨリ通達シテ來集ヲ乞
フヘシ

決議ノ事

第二十二條

頭取并取締役ノ會議ニテ事ヲ論決スル時ニハ連席人

×五五

數半以上ノ說ヲ以テ衆議ト定メ之ニ從フヘシ

第二十三條

此申合規則ハ取締役三分二以上ノ論ニ從フテ之ヲ改
正スルコトヲ得ヘシ

國立銀行ノ頭取支配人取締役等一同ノ心得トシテ申
諭ス諸件

凡ソ國立銀行ノ頭取支配人取締役ニ撰舉セラルハ人々ハ
銀行條例ノ趣意ヲ詳悉シ其商業ノ取扱振ニ熟達スヘキヲ
論ヲ待スシテ明ナリト雖モ今余紙幣頭ノ職ヲ奉シ國立銀
行ヲ總管スルヲ以テ茲ニ數件ヲ揭示シ其銀行ノ商業ヲ取
スベシトシ

扱フ爲ニ聊ノ裨益ヲナサンコトヲ望ム

國立銀行記錄ノ事

國立銀行ヨリ紙幣寮ニ差出タル創立證書銀行定款ノ扣ハ之ヲ銀行ノ記錄ニ寫留メ取締役ノ撰舉銀行ノ申合セ規則諸役人ノ撰舉取締役撰舉ニ付裁判役ノ報告取締役ノ誓詞諸役人身元請狀等其餘都テ後日ノ證據トナルヘキ書類ハ盡ク之ヲ記錄ニ寫留メ其銀行ノ創立ヲ明瞭ニ他人ニ示スヘキ様ニ心掛ヘシ尤モ其寫留ニハ頭取支配人ノ調印アルヘシ且其本紙類ハ大切ニ之ヲ藏置ヘシ

商業取扱ノ事

國立銀行ノ商業ヲ取扱ニハ丁寧ト遲滯ナキトノ兩條ヲ大眼目トスヘシ帳面類ハ毎日差引ヲ附ケ有高ト帳面高トニ相違アルヘカラス銀行ノ検査役ハ常ニ此處ニ注目シテ検査シ其狀實ヲ取締役一同ニ報告シ其顛末ヲ記錄ニ載セ置ヘシ

頭取ハ毎年撰舉スヘシ尤選舉ノ衆議ニヨリテ重年ヲ命スルコトアルヘシ其外支配人以下ノ役々ハ頭取取締役ノ衆議ニテ進退スヘシ但上任ノ節愷カナル請人兩人以上ノ調印ニテ其者ノ身元請狀ヲ取置キ若シ當人ニ過失アル時ハ償金取立ノ請人ヲラシムヘシ

貸附金ノ事

貸附金ハ其利分ヲ前ニ引去ルヘシ尤モ儘ナル見据ト引當
 アラハ利分跡拂ヲ肯スルヲアリト雖モ可成丈ハ前拂ニ
 取ルヘシ且貸附ノ日限ハ短キ程銀行ノ爲ニ便ナリト心
 得ヘシ

敗裂糜爛ノ紙幣ハ決シテ之ヲ貸附等ニ用フヘカラス之ヲ

新紙幣ニ引替渡スヘシ

金子ヲ實地ニ請取ラスシテ證文ノ書替ヲ承知致スヘカラ
 ス手數ヲ經ル迄ニテ更ニ銀行ノ益ナカルヘシ帳面上ノ
 益ノミニテハ實地ニ於テ其効ナシト知ルヘシ日限ニハ

急度返済金ヲ受取リテコソ實地ノ利益ヲ見ルコナリ

貸附金ハ大高ヲ一口ニ貸附ヘカラス須ラク小高ニ數口ア
 ルヲ良トスヘシ尤モ時宜ニヨリテハ一口大高ヲ貸シ附
 ケ其利益ヲ得ルコアレモ遂ニハ其借主ノ爲ニ銀行ヲ分
 散スルニ至ルノ恐レアリ貸附ノ秘事ハ未前ヲ洞察シテ
 進退スルニアリト知ルヘシ

出入ノ得意先ハ都テ信切ニ取扱フヘシ得意先ノ人々ノ繁
 昌ハ即チ其銀行ノ繁昌ナリ但シ銀行ノ秘事ヲ得意先ニ
 知ラシムヘカラス却テ彼ニ謀ラルヘノ端トナルヘシ
 若シ貸附先ニ付テ疑ヲ懷クコアラハ貸附ヲナスヘカラス

之ヲ斷ル方銀行ノ爲ニ益アルヘシ決シテ果斷ヲ行フ事
 ナカレ又得意先ノ人ニ信用シ難キコアラハ速ニ之ヲ斷
 リテ取引ヲ爲スヘカラス彼ノ術中ニ陷リタルト見セ掛
 ケ此方ノ利益ヲ占ムルノ奇道ハ商業上ニ於テアルコナ
 レ此大抵ハ損ヲ招クコ多ク利ヲ得ルコ少ナシト知ルヘ
 シ
 貸借ノ事ニ付他人ノ策ヲ信用スルコ勿レ只々謹直ニ取扱
 フヘシ或ハ政事上ノ權ニ脅サレ或ハ非常ノ利ニ惑ヒ自
 己ノ私慾ニテ全社ヲ誤ルコアリ一體國立銀行ハ日本全
 州ノ爲ニ創立シタル大切ノ銀行ナレハ自カラ其重任ヲ

ルコヲ願ミテ此般ノ謬ヲ醸スコ勿レ
コトヤウチマチガヒシマス

役人ノ事

銀行ノ役人等へ渡スヘキ俸給ハ其才能ト職掌ニ從テ相應
 ニ之ヲ與フヘシ然ラサレハ其役人ヲシテ十分ノ力ヲ盡
 サシムルコヲ得サルヘシ若シ其俸給ヨリ以上ノ財ヲ散
 スル役人アラハ速ニ其職ヲ放免セヨ假令其財ノ來リテ
 生スル所明瞭ナリトモ尙之ヲ放免スヘシ他日必ス禍ヲ
 惹クノ基トナルヘシ凡ソ入ル所ヨリ費ス所ノ多キ人ハ
 多クハ善良ナル銀行ノ役人ト見做スヘカラス

元金ノ事

銀行ノ元金ハ必ラス實額タルヘシマコトニアルカズ虚額タルヘカラス故ニ
 元金ハ貸ス爲ノ金ナリ借ル爲ノ金ニ非ラス株主ヲシテ
 能々此理ヲ曉ラシムヘシ紙幣頭ハ其威權ヲ以テ手段ヲ
 盡シ銀行ヲシテ必ラス虚名ノ元金ナキ様ニナサシムヘ
 シ是銀行ヲ拘束スルニ非ス銀行ノ堅固ヲ謀リテノ事ナ
 リ

諸務取扱ノ事

國立銀行ノ法ハ政府深ク其發行ノ金札兌換ノ事ニ注意シ
 テ官民ノ便益ヲ謀リテ之ヲ制定スルモノナリ故ニ世人
 舉テ之ヲ精確良法ト稱スルハ余カ前識スル所ナリ苟モ
コソコソ
シハシラシカナルヨキシカズ

銀行ノ人々ハ此盛意ヲ體認シテ其責任ニ負カサランコ
オモヒコシ
ミニクケテトメル
 ヲ心掛ケ以テ其事務ヲ處分セハ必ラス其實効ヲ得ヘシ
 一度其實効ヲ得ル時ハ獨リ其銀行ニ利益アルノミナラ
 ス日本全州ノ裨益トナリ其銀行ノ榮名徧ク天下ニ滿ツ
ヨキヒヤウマン
 ヘシ又其處分ヲ謬リテ不幸ヲ釀サハ遂ニ衆人ノ怨府ト
ウラミシツツアルトコロ
 ナリ世上ノ誹謗ヲ招クコ必然ナリ此榮辱利害ヲ顧ミテ
 事務ヲ處分セヨ

銀行ハ役人ハ勤メテ銀行ヲ堅固ニナス事ヲ心掛ケ其元金
 ヲ保全シ其積金ヲ貯蓄シ將來第一ノ最大ナル銀行タラ
 シコヲ謀ルヘシ

銀行ノ帳面ヲ衆目ニ示シテ贊稱セラレ諸人ノ爲ニ信用セラレ依頼セラル、ノ策ハ他ナシ只其積金ヲ多クスルニアル而已此理ヲ辨セハ銀行ノ利益ヲ分割スルニ臨ミ寧ロ株主等ノ望ミニ十分ナラストモ積金ヲ多スルヲ注意スヘシ

銀行ノ事務ヲ處分スルニ當リテハ須ラク廉直公平ナルヲ主トスヘシ奇道ヲ用ヒテ非常ノ大利ヲ貪ルヲ勿レ只々銀行條例ヲ眼目トシ假令木訥ナル銀行ト云ハル、トモ理財ニ巧ミナル銀行ト云ハル、ト勿レ理財ニ巧ナル銀行ハ大抵狡猾ニ非サレハ必ラス虚唱ナル銀行ナリ決

シテ不朽ノ信ヲ得ルヲ能ハス
銀行ヨリ發行ノ紙幣ハ永久ニ通用スヘシト思フヘカラス速ニ之ヲ正金ニ引替畢ラント祈望スヘシ抑モ近年更始ノ際萬々止ヲ得サルノ時期ニ遭ヒ政府ヨリ始メテ金札ヲ發行シ姑ク之ヲ正金ニ代用スト雖モ本是政府ノ素意ニ非ス故ニ今政府公債證書ヲ發行シテ人民ノ所望ニ任セ之ヲ交換シ期ヲ定メテ其公債ヲ消却セントス此際ニ臨マハ銀行ノ紙幣モ亦盡ク引替畢リテ之ヲ廢止センヲ勿論ナリ故ニ政府ノ公債證書ニヨリテ銀行ノ紙幣ヲ發行シ以テ世上ノ商賣ニ通用スル間ハ政府ト銀行ニテ日

本全州ノ人民ニ對シテ其責ニ任スルコト心得ヘシ
 是ニ由テ之ヲ觀レハ今政府能ク會計ノ條規ヲ踐行シ定期
 ニ從テ其公債ノ支消ヲ遂ケ銀行モ亦其營業ヲ確實ニシ
 テ發行紙幣ノ正金引替ヲ怠ラス能ク萬人ノ共信ヲ得ハ
 終ニハ全州ノ理財會計ヲ挽回スルモ亦甚々至難トスヘ
 カラス然ル時ハ日本人民ニ對シテ之ヲ大功下云ハサル
 ハケンヤ豈愉快ナラスヤ豈名譽ナラスヤ
 今ヤ世人皆流融ノ不便ヲ鳴シテ銀行ノ創立ヲ企望ス幸ニ
 此銀行ノ方法善良ナルヲ知り其發行紙幣ノ便ナルヨリ
 夙ク人民ノ望ニ適セハ之ヲ最良ノ貨幣トシテ遂ニ政府

ノ金札ニ優ルノ稱ヲ得ルニ至ルハ余カ篤ク信スル所ナ
 リ希クハ銀行能ク其業ニ勉力シテ其資稱ヲ空クスルコ
 勿レ

紙幣頭ノ願フ所ハ此方法ヲ以テ銀行ノ利益ヲ起シ全州ノ
 人民ヲ裨益シ富國理財ノ一助ヲランコナリ是即チ政府
 ノ祈望スル所ナリ而シテ之ヲ實行スルハ銀行ノ役人ノ
 心掛ニアルノミ頭取支配人取締役ヲラン人ハ篤ト此情
 實ヲ會得セヨ

明治五年八月五日

紙幣頭公告

第四章 銀行證券

第一款 銀行紙幣

(布告)第六年八月廿日 今般東京第一國立銀行ニ於テ國立銀行條例之趣意ニ據リ公債證書ヲ抵當トシテ本年八月二十日ヨリ別紙見本ノ通二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ海關稅及ヒ公債證書ノ利息ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引等總テ正金同様通用セシメ候條此旨可相心得最右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ銀行本店并橫濱大坂神戸ノ枝店ニ於テ人民之望次第無差支正金ト引換ル旨ニ付無疑念取引可致依テ銀行紙幣見本相添此旨布告候事 見本

(增)布告)第六年十月十八日東京第一國立銀行紙幣ノ儀東京本店并ニ橫濱大坂神戸ノ枝店ニ於テ引換候旨本年八月第三百四號ヲ以布告候處東京ハ第一大區小十五區兜町大坂ハ東大組第十三區高麗橋通四丁目ニ於テ別店ヲ設ケ引換專務爲取計候條望ノ者ハ右兩所ノ内へ可申出此旨布告候事

(參考)達)壬申十一月十五日 此度政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ正金引替ノ紙幣ヲ發行スル銀行創立ノ方法ヲ制定シ普シ頒布セシメ候(抄錄)○(本)號ヲ以頒布ノ國立銀行條例第十八條第二款ニ紙幣發行ノ規則ヲ載ス見合)

〔布告〕第六年十一月十四日 今般大坂第五國立銀行ニ於テ國立銀行條例ノ趣意ニ據リ公債證書ヲ抵當トシテ本月十七日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ海關稅并公債證書ノ利足ヲ除ノ外租稅其他公私ノ取引等總テ正金同様令通用候條此旨可相心得尤右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ人民ノ望次第左ノ場所ニ於テ無差支正金ト引換ル等ニ付聊無疑念取引可致此旨布告候事

但紙幣ノ儀ハ本年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同様ニテ唯表面銀行名號地名及ヒ頭取支配人ノ名印并裏面割印相異リ候迄ノ儀ニ付別段見本

×五六

相添サル事

第五國立銀行發行紙幣正金引換場所

本店 大坂西大組第十三區立賣堀五丁目

枝店 東京第一大區十四小區新和泉町

〔改〕布告〔第六年十二月廿日 本年十一月第三百七十八號布告
第四百十四號

訂正

第五國立銀行發行紙幣正金引換場所本店大坂西大組第十三區ハ第十區ニ候條此旨更ニ布告候事

〔增〕布告〔第七年十月廿九號 明治六年十一月第三百七十八號布告

第五國立銀行發行紙幣正金引換場所枝店東京第一大區

十四小區新和泉町ニ候處今般同大區同小區蠣殼町一丁目ニ移轉候條此旨更ニ布告候事

〔布告〕七年二月十八號今般新瀨第四國立銀行ニ於テ國立銀行條

例ノ趣意ニ據リ公債證書ヲ抵當トシテ本月二十日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ海關稅并公債證書ノ利足ヲ除ノ外租稅其他公私ノ取引等總テ正金同様に通用候條此旨可相心得尤右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ人民ノ望次第左ノ場所ニ於テ無差支正金ト引換ル筈ニ付無疑念取引可致此旨布告候事

但本文紙幣ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀

行ニ於テ發行ノ品ト同様ニテ唯表面銀行名號地名及ヒ頭取支配人ノ名印并裏面割印相異リ候迄ノ儀ニ付別段見本相副サル事

第四國立銀行發行紙幣正金引換場所

本店 新瀨縣下第一大區小二區越後國
蒲原郡新瀨港東堀前通七番地

枝店 東京第五大區四小區和泉橋通佐久間町一丁目

〔布告〕七年七月廿九號今般橫濱第二國立銀行ニ於テ國立銀行

條例ノ趣意ニ據リ公債證書ヲ抵當トシテ來ル八月十五日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行シ海關稅并公債證書ノ利足ヲ除クノ外租稅其他公私ノ取引等總テ

九九

正金同様令通用候條此旨可相心得尤右紙幣ノ儀ハ何時ニ
テモ人民ノ望次第左ノ場所ニ於テ無差支正金ト引換候管
付聊無疑念取引可致此旨布告候事

但紙幣ノ儀ハ明治六年八月三四號布告第一國立銀行發
行ノ品ト同様ニテ唯表面銀行名號地名及ヒ頭取支
配人ノ名印並裏面割印相異リ候迄ニ付別段見本相添サ
ル事

第二國立銀行發行紙幣正金引換場所

本店 武藏國久良岐郡橫濱港本
町三町目第二國立銀行

○公債證書取扱ヒ

〔布告〕六年三月三十日 金札引換公債證書發行條例ノ内
第二百二十一號

第四條

何人ニ論ナシ太政官札民部省札并ニ新圓札ヲ所持イタシ
公布ニ從テ利子ヲ得ンタメ公債證書ニ交換センコトヲ欲セ
ハ次節ノ手續ヲ經テ其金札類ヲ大藏省紙幣寮へ差出シ大
藏省ノ都合ヲ以テ前章ニ載セタル兩證書ノ内〔民法第二篇
章第二款〕受取ル事ヲ得ヘシ

一〇九

但受取リシ内贖札アル時ニハ其贖札ニ相違ナキノ確證
ヲ持參人へ指示シ其種類金高枚數等ヲ帳面ニ記シ置キ

其札ハ即座ニ(七)此ノ四月十五日第百六十四號布告ニ作ル改正
ス)之ヲ斷截ニ附スヘシ(改正前ハ之ヲ斷截シテ其本人ヘ
見合スヘシ)返スヘシニ作ル民法第二篇讓渡

東京横濱大坂西京神戸長崎箱館新潟及ヒ右ニ接近セル場
所ハ大藏省紙幣寮又ハ其出張所又ハ第一國立銀行本店出
店等へ願書ト俱ニ金札ヲ差出スヘシ其他銀行ノ出店ナキ
場所ハ其地方官廳へ差出スヘシ

右公債證書ヲ願受ント欲スル者ハ前節ノ通り其場所ノ役
所又出店へ金札太政官民政部省及新札ノ總稱ヲ幾許ノ高ニテモ持參シテ
何々高ノ公債證書記名或ハ利札證書幾枚請取度旨ヲ願書ニ認メテ

差出スヘシ

各所ノ出張所或ハ國立銀行等ニ於テ願人ヨリ願書ト金札
トヲ受取ル時ニハ請取書二通ヲ認メ公便ヲ以テ本紙ヲハ
東京大藏省紙幣寮へ差出シ寫ヲ本人へ渡置ク可シ尤モ其
本紙へハ證書ノ種類枚數等ヲ明細ニ記入スヘシ第一第二
ニ紙幣寮ニ於テハ各所ヨリ右ノ受取書ヲ送ル時ハ直ニ證
書渡方ノ手續ヲナシ右目錄通或ハ都合ニ由リ大藏省存意
通ノ證書金高枚數ニ明細ノ目錄書ト本人ヨリ差出スヘキ
請取ノ下書トヲ封入シテ公便ヲ以テ各所ノ役所へ届ケ夫
ヨリ本人へ送り届クヘシ第三第四第五第
六雛形ノ如シ

但土地ノ便宜ニヨリテ直ニ本人ノ宿所へ送り届クヘシ
 本人ハ此證書ヲ請取ル時ニハ證書ト俱ニ請取リタル請取
 書ノ下書へ請取リタル證書ノ目錄ヲ記入シハ記名證書ナレ
 所ノ地名ヲ記名并調印ノ上ニテ公便ヲ以テ前以テ請取
 オレル請取書ノ寫トヲ紙幣寮へ送ルヘシ
 證書ヲ願フニ其月ノ十五日以前ニ入金スレハ全月ノ利息
 ヲ拂フ可ケレモ十五日以後ナレハ其月ノ利息ハ拂ハサレ
 ヘシ

第五條

兩證書共ニ其利息拂場所ハ東京大坂横濱長崎神戸西京新

洞箱館等ハ銀行出張所ニ於テスヘシ故ニ記名證書ヲ願受
 ル者ハ當初證書ヲ請取リタル時同時ニ得タル請取書下書
 ノ末へ前ニ記セル場所ノ内其都合ニ任セ利息請取場ヲ記
 入スヘシ
 利札證書ハ紙幣寮ノ元帳上ニ於テ書替ルコトナク容易ニ何
 地へナリトモ轉移スヘキ者故ニ當初請取リタル本人ヨリ
 前以テ其利息請取場所ヲ記入スルニ及ハス利息請取期月
 ニハ前ニ記セル場所ノ内へ持參シテ請取ル事ヲ得ヘシ
 記名利札兩證書トモニ其利息ノ拂方ハ毎年七月一日ヨリ
 十五日十二月一日ヨリ十五日マテ兩度ニ拂渡スヘシ

〔改〕布告 第八年八月廿四日 金札引換公債證書發行條例 〔全文〕
法第二篇第四卷第三
三章第二款第四出

第五條 第三項

記名利札兩證書共ニ其利息ノ拂方來ル明治九年ヨリハ
毎年十二月一日ヨリ同月十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘ
シ

記名證書ノ利息請取方ハ所持人自ラ其場所ヘ證書ヲ持參
シ役人ノ目前ニ於テ證書裏面ノ枠内ヘ記名調印スヘシ若
シ病氣其他止ム事ヲ得サル事故ニ由テ所持人自ラ場所ヘ
來リテ請取ルヲ能ハサル時ニハ名代人ヲ命ジ證書ヲ持參

シテ請取ル事ヲ得ヘシ最モ名代人ヲ任スルニハ自筆記名
調印ノ委任狀ヲ渡置クヘシ拂場所ニ於テハ本人自筆ノ委
任狀ヲ見シ上ニテ利息ヲ拂渡スヘシ利札證書ノ利息請取
方ハ本人ニテモ代人ニテモ其證書ヲ利息拂場所ニ持參ス
ルハ證書ノ下端ニ附添セル利札ヲ切取リテ其利息ヲ相渡
スヘシ

〔改〕布告 第六年七月廿二日 第二記名證書之利息拂方ハ其期
月前紙幣寮ヨリ利息請取切手形第九號 縦ヲ直ニ證書之所
持人ヘ相送り又時宜ニヨリテハ地方廳ヲ通シ差送ルヘ
ケルハ所持人ハ切手ノ裏面ニ縦形ノ通り記名調印シテ

之ヲ其名宛之場所ニ持參シテ利息ヲ請取ヘシ若病氣其
 他止ムヲ得サル事故ニ由テ所持人自ラ其場所ニ至リ請
 取事能ハサル時ニハ名代人ヲ命シ切手ヲ持參シテ請取
 事ヲ得ヘシ尤名代人ヲ任スルニハ自筆記名調印之委任
 狀ヲ渡置ヘシ拂場所ニ於テハ本人自筆ノ委任狀ヲ見シ
 上ニテ利息ヲ拂渡スヘシ利札證書ノ利息請取方ハ本人
 ニテモ代人ニテモ其證書ヲ利息拂場所ニ持參スレハ證
 書ノ下端ニ附添セル利札ヲ切取リテ其利息ヲ相渡スヘ
 シ

切手雛形(第九號)

第二款 爲替證券

(布告) 辛未十月(前署ス)今般爲替座三井組へ申付政府在來ノ
 古金銀ヲ引當トシテ凡三百萬圓ノ正金引換十圓五圓一圓
 三種ノ証券ヲ製造シ來ル十五日ヨリ發行致シ海關稅ヲ除
 クノ外租稅其他ノ上納物日用公私ノ取引ニ至ルマテ都テ
 正金同様ニ通用セシメ候尤モ右証券ノ儀ハ新貨鑄造ノ高
 ニ應シ引揚クヘキ筈ニ候得共若シ差當リ正金引換方望出
 候者ハ何時ニテモ三井組ニ於テ在來ノ二分判ヲ以テ引換
 遣シ候條諸民一毫ノ疑念ナク從前金札同様互ニ通用致ス
 ヘク此段相達候事

〔增〕達 月十四日(前略ス)正金引換証券製造ニ付テハ當十月
 中相違候趣モ有之候處今ニ至ルマテ彼是嫌疑ヲ挾ミ取
 引差障リ遂ニ一般ノ不融通ヲ釀成シ下民ノ苦情モ有之
 哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候萬一向後右証券取引ニ付心
 得違候者有之ニ於テハ嚴重可致處置候條町所名前等取
 調可申立事

〔指令〕王申正月廿二 今般東京大坂函館三ヶ所ニ貸附會所
 ヲオキ北海道税金定額金發行証券遣拂見込高ノ餘分
 ヲ貸附相當ノ利分ヲ收納致シ追々証券消盡ノ方法且
 移民ノ融通等非常ノ豫備致度

月日欠 伺之通 指令

〔增〕布告 壬申正月十六日第六號
 今般北海道開拓使ニ於テ爲替座三井組
 へ申付政府在來ノ古金銀ヲ引當トシテ高二百五十萬圓ノ
 正金引換証券十圓五圓一圓五十錢二十錢十錢六種ヲ製造
 シ來ル十五日ヨリ發行致シ海關稅ヲ除クノ外租稅其他ノ
 上納ハ勿論日用公私ノ取引ニ至ルマテ都テ正金同様通用
 セシメ候且右證券ノ儀ハ大藏省發行ノ證券ト同模様ニテ
 開拓使印并次官ノ檢印ヲ押區別相立東京大坂箱館三ヶ所
 ノ三井組ニ於テ新貨幣出來次第追々可引換尤至急引換申
 出候者ハ在來ノ二分判ヲ以テ引換遣シ候條諸民一毫ノ疑

念ヲク從前金札同様互ニ通用可致此段相達候事

〔增〕大藏省達 日第三十四號 六年三月十五日 當省并開拓使發行爲換座三井組ト記載致シ候正金兌換証券之儀一圓以上ノ分堅牢黒肉ヲ以更ニ何圓之捺印致シ候管兼テ相達有之候處右札諸國へ散布ニ付東京大坂等而已ニテハ所持ノ者迷惑不
少且抄取兼候ニ付此度三井組へ申付同組出張先於テ加印セシメ候間其管下最寄々聊ニテモ所持ノ者ハ繰ノ手數ヲ不厭速ニ右出張先へ可申出旨末々迄及布達無洩加印相調候様厚世話可致事

〔廣〕布告 壬申八月十三日 昨年來發行ノ爲換座三井組ト記載 第二百廿三號

有之大藏省及開拓使正金兌換証券ノ内一圓五圓十圓等裏面糊附ノ小印紙へ別紙雛形ノ通更ニ何圓ノ名稱ヲ加印セシメ并ニ大坂造幣寮發行ノ古金銀預証券へモ同様加印セシメ候條聊無疑念通用可致且五十錢二十錢十錢ノ小券ハ追々御都合ニヨリ春來發行ノ新紙幣ヲ以交換可相成ニ付其場所日限等ハ追テ可相達事(雛形略ス)

〔增〕達 壬申十月二十五日 昨年來發行ノ爲換座三井組ト記載 有之大藏省及ヒ開拓使正金兌換証券ノ内五十錢二十錢十錢ノ小券追テ御都合ニヨリ當春來發行ノ新紙幣ト交換可相成旨當八月中第二百廿三號布告及置候處來十一

月朔日ヨリ左ニ揭示スル場所ニ於テ交換候條此旨各管轄内へ不洩様可相達候事

東京 函崎町

開拓使貸附會所

大坂 北鞆町

同斷 會所

函館 大町一丁目

同斷 會所

〔増〕達第六年五月廿日去辛未以來發行ノ爲換座三井組ト記載有之大藏省及開拓使正金兌換證券ノ内五十錢二十錢十錢ノ三種小券昨壬申來發行ノ新紙幣ト引替可相成旨同年第二百二十三號及ヒ第三百十五號ヲ以テ布告候處本年十二月廿日限り通用令停止候條右證券所持ノ者ハ

右期限ニ後レサル様左ニ揭示スル場所并ニ西京其外各地方廳へ引換可申出旨各管轄内へ不洩様可相達尤引換方ノ儀ハ大藏省へ打合不都合無之様可取計事

東京函崎町

開拓使貸附會所

大坂北鞆町

同斷 會所

函館大町一丁目

同斷 會所

札幌

同使廳

根室

同支廳

樺太

同斷

留萌

同斷

蒲河

同斷

松前

同出張所

小樽

同斷

各府縣引換場所ノ儀ハ其處ノ便宜ニヨ

ルヘシ但シ東京大坂兩府ヲ除ク
(増)大藏省達日第六百一號本年第六十九號ヲ以公布相

成候通正金兌換証券ノ内五十錢二十錢十錢ノ三種引換
可相成ニ付別紙手續書相渡候條不都合無之様可取計事

別紙

正金兌換証券五拾錢貳拾錢拾錢

三種引換方手續書

第一條

近來兌換証券ニ模擬贗造ノモノアリ故ニ縣官ヨク茲ニ
注意シ交換ノ際註誤ナキヲ要ス

第二條

手摺墨附油染有之モノハ引換與ル事差支ナシ燒損ノモ
ノニテモ西洋製小印紙及ヒ何錢ノ文字現存スルハ引換
與フヘシ

但現存スル共何錢ノ文字欠損シテ分明ナラサルハ十
錢ヲ以引換與フ可シ

第三條

贖札ヲ持參シテ引換ヲ請フ者アラハ其贖札ニ相違ナキ
ノ確證ヲ指示シ其種類金高枚數ヲ帳面ニ登記シ持參人
ノ眼前ニ於テ其札ヲ斷截シ贖札持參ノ者ニ疑數事アラ
スル事勿論引換畢リタル後贖札類ヲ集メテ令參事ヨリ
タテ可シ
明細書ヲ添テ東京紙幣寮大坂出張紙幣寮へ上納ス可シ

第四條

西洋製小印紙ナキモノハ真物タルモ引替與フ可ラス

第五條

引換元金ハ第三常備金ノ内ヲ以テ操替取計置追テ證券
引替畢リ上納濟ノ後紙幣寮ヨリ請取ヘシ

第六條

引換タル三種證券ヲ上納スルニハ其種類ヲ分チ百圓宛
ニ封シテ其上面へ金高枚數種類ヲ詳記シ令參事檢印ノ
上ニテ別ニ金高枚數種類ノ明細帳ヲ添東京府外二十六
縣ハ東京紙幣寮京都府外一府三十四縣ハ大坂出張紙幣
寮へ上納スヘシ

但上納ノ節其證券ヲ東京第一國立銀行并其出店へ相
預ケ其預リ證書ヲ以東京紙幣寮大坂出張紙幣寮へ上
納スヘシ
右納ノ後檢査ヲ行フニ當リ若シ札員ノ不
足或ハ贖札ノ混入セルヲ發見スル時ハ令參事其責ニ

任シ相當ノ辨金ヲ致ス可シ

東京紙幣寮へ上納之部

東京府

神奈川縣

新潟縣

埼玉縣

熊ヶ谷縣

足柄縣

千葉縣

新治縣

茨城縣

椽木縣

濱松縣

静岡縣

山梨縣

坑摩縣

長野縣

宮城縣

福島縣

磐前縣

若松縣

水澤縣

岩手縣

青森縣

山形縣

置賜縣

酒田縣

秋田縣

相川縣

大坂出張紙幣寮へ上納ノ部

京都府

大坂府

兵庫縣

長崎縣

奈良縣

堺縣

三重縣

度會縣

愛知縣

滋賀縣

岐阜縣

敦賀縣

石川縣

新川縣

豐岡縣

鳥取縣

島根縣

濱田縣

飾磨縣

北條縣

岡山縣

小田縣

廣島縣

山口縣

- | | | |
|------|-----|------|
| 和歌山縣 | 名東縣 | 高知縣 |
| 愛媛縣 | 福岡縣 | 三潁縣 |
| 小倉縣 | 大分縣 | 佐賀縣 |
| 白川縣 | 宮崎縣 | 鹿兒島縣 |
- 第七條

右 上納ニ付運送ノ入費ハ可成丈減少ノ方法ヲ以第貳常
 備金ノ内ニテ立替置追々明細帳ヲ以當省へ申立別途之
 ヲ受取ヘシ

明治六年六月

大藏省

(增)布達 六年十一月十日大本年第一百一號當省布達正金兌
 藏省第百六十三號

換証券ノ内五十錢二十錢十錢ノ三種引換高當十月三十
 一日マテノ分取調往復日數ヲ除ノ外三日限紙幣寮へ可
 差出右ハ御都合モ有之候條可成丈早行引換本年第一百六
 十九號公布ノ通期日後レサル様注意可致候此旨布達候
 事

(增)布告 六年十二月廿三 本年五月第百六十九號ヲ以テ開
 日第四百十五號 拓使發行五十錢以下証券ノ儀本月廿日限リ停止ノ旨其
 外引換方等布告候處未引換殘モ有之由相聞候ニ付特別
 ノ譯ヲ以テ更ニ明治七年二月廿八日マテ前號ノ趣ニ準
 シ引換遣候條右日限マテ無相違引換可申候此旨布告候

事

但通用停止ノ儀ハ第百六十九號ノ通リタルヘキ事
 (增)布達^{七年二月二十五日}大藏省第十八號 開拓使發行五十錢以下證券引
 替期限ノ儀客歲四百十五號公布ノ通本月廿八日限滿期
 二付テ者期限中各地方廳於テ第二常備金ノ内ヲ以操替
 相渡候分及租稅其他公納ノ分共來ル四月廿日限上納取
 計引替札ハ同年當省第百一號布達手續書之通紙幣寮又
 ハ大坂出張同寮ノ内へ上納代札并入費請取方共可申出
 此旨布達候事

(增)大藏省達^{七年四月廿五日}日第三十九號 開拓使發行五十錢以下證券ノ

儀明治六年第百六十九號第四百十五號公布及當省第百
 一號布達ヲ以通用停止ハ同年十二月廿日限引換期限ハ
 本年二月廿八日限度ハ公布相成候處今以所在散布致候
 趣相聞候右ハ窮竟僻地ノ人民兎角御趣意了解致兼候ヨ
 シ等閑打過候儀ニ可有之候ニ付今般詮議有之候條於各
 地方官管下一般へ厚致告諭右證券所持ノ者ハ來六月三
 十日限リ其由詳細可申出候此旨相達候事
 (增)大藏省達^{七年八月七日}第八十一號 開拓使發行五十錢以下証券引
 換期限ノ儀本年二月廿八日限ニ候處期限後所在散布致
 居候趣相聞窮竟僻地之人民兎角御趣意了解致シ兼候ヨ

リ等閑打過候儀ニモ可有之ニ付詮議ノ次第有之條管下
 一般へ告諭右証券所持ノ者ハ其事由去六月三十日限詳
 細申出候様可取計旨本年四月廿五日營省第三十九號ヲ
 以相達置候處于今何等不申出向モ有之右ハ再應公布ノ
 旨ヲ注意セサル所ヨリ竟ニ期ヲ外シ萬ヤ不都合ノ次第
 ニ付右日限後ハ勿論廢物ト爲シ可申答ノ處左候テハ細
 民共可爲難儀ニ付更ニ特殊ノ典ヲ以來ル九月三十日迄
 届方猶豫致遣シ候間右日限中決テ無遺漏可申出萬一右
 期限ヲ過キ何様歎願候共採用不致斷然可爲廢物條各管
 下一般懇々觸示其趣旨徹底候様可取計此旨相達候事

(指令)八年三月七開拓使發行五拾錢以下證券引換ノ儀ハ
 日大藏省伺
 明治六年第六拾九號第四百十五號御布告ニテ通用
 停止ハ同年十二月廿日限リ引換期限ハ同七年二月廿
 八日限ニ候處期限後兎角所在散布致候趣ニテ追々歎
 願申出候向モ有之候ニ付期限後所持ノ者ハ其事由詳
 細取調同年九月三十日限可申出旨當省ヨリ使府縣へ
 相達候處遠隔往復等ニテ此節迄別紙調書ノ通申出何
 レモ僻遠愚昧ノ人民又ハ婦女子ノ手ニ落候分御趣意
 了解難致ヨリ竟ニ期限ヲ誤候儀ニテ不都合ニハ候へ
 正此儘廢物ト爲シ候モ事情懸然ニ付特別ノ御仁恤ヲ

以此度限引換遣候様仕度尤引換ノ節檢査ノ上聊増減
モ可出來ニ付尙追テ結局御届可申上候因テ別紙相添

伺(別紙略ス)

三月廿四日 伺之趣聞届候事

〔布告〕八年八月四日 今般函館在留英國人プラキストン商社
ニ於テ我國内通用ノ證券製造致シ候趣右ハ我政府ニ於テ
許可セシモノニ無之ニ付通用不相成候條決シテ取引致ス
間敷此旨布告候事

但右證券ハ西洋紙ニシテ表面ニ此證券ヲ持參スル時ハ
何時ニテモ可引換旨并ニ其社名及ヒ拾錢壹圓等ノ文字

×五八

ヲ日本西洋ノ兩體ヲ以テ記載シ中央ニ日本船形ノ圖有
之裏面ハ番號ノミ有之候事

〔増〕布告〔八年八月廿五日〕先般箱館在留英國人プラキスト

ン商社於テ我政府ノ許可無之我國内通行ノ證券製造致
候趣ニ付右證券ハ取引致間敷旨本第二百二十五號ヲ以布
告候處今般我國在留英國公使へ右證券發行制停ノ儀掛
合ノ末同公使ヨリ箱館港在留英國領事へ相達シ同商社
ニ於テ既ニ發行ノ分共總テ引取相成候趣ニ付此旨更ニ
布告候事

八年八月十五箱館在留英商プラキストン會社於テ發行
日外務省原伺

ノ證券我國内通用不相成候ニ付本月四日第百廿五號
 フ以御布告有之候處右發行制停ノ儀ハ兼テ英國公使
 パーグス氏へ及掛合候處同公使ヨリ箱館在留英國領
 事へ相達シ當七月廿三日迄ニ證券ハ同會社へ引取り
 候旨尤右之内殘高金三十一圓八十錢引取兼候得共此
 分蓋同港地方官ノ手ニ可有之ト同商社ニ於テ相考候
 旨英國公使ヨリ回答有之候ニ付更ニ御布告有之度依
 之別紙御布告案相添此段上申候也

八月廿五 上申之趣聞届第百三十二號ヲ以布告候事

○西京大阪神戸大津敦賀爲替會社ノ金券引替

〔大藏省達〕六年六月三日 西京大阪神戸大津敦賀爲替會社ニ
 於テ發行ノ金券ハ當四月一日ヨリ九月三十日迄引換可願
 出旨兼テ及布達置候處引換願出候者稀少ノ趣右様等閑ニ
 打過候テハ自然期限ニ差迫リ引換願ノ者一時ニ幅濶致シ
 混雜ノ處ヨリ引換殘モ出來致シ所持ノ者可及難儀條其邊
 ノ御趣意柄ヲモ篤ト相辨金券所持ノ者ハ聊タリ早ヤ引
 換可願出旨小前未々迄不洩様可相達事

〔增〕大藏省達〕六年十月十三日 西京大阪神戸大津敦賀爲替
 會社發行金券引換方ノ儀兼テ相達置候諸上納其他交換
 爲シ遺候員額當九月三十日迄ノ分別紙雛形ノ通取調十

月七日ヨリ往返日數ヲ除ノ外十日ヲ限紙幣寮并大坂出張同寮ノ内へ差出可申此旨相達候事

別紙

雛形左之通

記

一壹兩券何百兩

西京爲換會社發行之分

此枚數

一金券何千兩

大坂爲換會社同斷

内

百兩券

何枚

五十兩券

何枚

拾兩券

何枚

五兩券

何枚

壹兩券

何枚

一貳拾五兩券何百兩

神戸爲換會社同斷

此枚數

一壹兩券何百兩

大津爲換會社同斷

此枚數

一壹兩券何拾兩

敦賀爲換會社同斷

此枚數

右者當九月三十日迄諸上納并引換遣シ候分共書面ノ通有之候也

年月日

府縣知令參事何某

東京之分

紙幣頭芳川顯正殿

大坂之分

紙幣寮七等出仕岸有熹殿

〔增〕布達 六年十月十三日大藏省第三百三十八號 西京大坂神戸大津敦賀爲換會社發行金券當四月一日ヨリ九月三十日迄引換方及布達候ニ付右期限後通用難相成處萬一僻陬ノ地引換殘リ等

有之其儘廢物ト相成候テハ小民共可爲難儀ニ付特別ノ詮議ヲ以當十一月三十日迄爲引換候ニ付右延期中無遺漏引換尤來ル十二月一日ヨリ斷然通用令停止候條後日不都合無之様注意管下一般不洩様可觸示此旨更ニ布達候事

〔增〕大藏省達 第六年十二月四日 西京大坂神戸大津敦賀爲換會社金券引換期限當十一月三十日迄ノ積當省第三百三十八號ヲ以相達置候通期限後通用引換共不相成候條兼テ相渡置候見本札未タ返納不相成向ハ早ク相納可申候就テハ先般第三百三十七號ヲ以相達候諸上納其

他交換濟ノ員額當九月三十日迄ノ分ハ逐次届出有之
候得共猶十月一日ヨリ十一月三十日迄之分別紙雛形
ニ照シ取調本月七日ヨリ往返日數ヲ除ノ外十日ヲ限
リ有無トモ紙幣寮并大坂出張同寮ノ内へ可届出候此
旨相達候事

別紙雛形

記

一 壹兩券何兩 西京爲換會社發行ノ分

此枚數

一金券何兩 大坂爲換會社同斷

内

何兩券 何枚

何兩券 何枚

一 貳拾五兩券何兩 神戸爲換會社同斷

此枚數

一 壹兩券何兩 天津爲換會社同斷

此枚數

一 壹兩券何兩 敦賀爲換會社同斷

此枚數

右者當十月一日ヨリ同十一月三十日迄諸上納并引換遣

シ候分共書面ノ通有之尤租稅或ハ何々上納ニ相立其申候此段御届申候也

年號月日

府縣知令參事何某印

東京之分

紙幣頭芳川顯正殿

大坂之分

紙幣寮七等出仕岸有熹殿

〔増〕大藏省達〔七年三月廿七號〕昨明治六年三月中下渡候西京其外爲換會社金券見本返納ノ儀同年當省第七百七十一號ヲ以相達候處猶返納未濟ノ縣々許多有之右ハ事

務之都合モ有之候間本月廿八日ヨリ往復日數ヲ除外十日ヲ限り取纏メ東京紙幣寮へ返納可致此旨相達候事

〔増〕大藏省達〔六年十二月廿五號〕西京大坂神戸大津敦賀爲換會社金券引換期限當十一月三十日迄ノ積本年第三百三十八號當省布達ノ通期限後通用引換トモ不相成候條兼テ相渡置候見本札返納云々頃日第七十一號ヲ以相達置候處兎角右金券今以諸方ニ散布致居候趣ニテ既ニ實況報告處分伺出ノ向モ有之右ハ固ヨリ布達ノ旨ヲ注意セサル所ヨリ竟ニ引換ノ機ヲ外シ萬々不都合ノ次第ニ付

其儘廢物ト爲シ可申管ノ處左候テハ細民トモ可爲難儀
 二付更ニ特殊之典ヲ以テ來明治七年二月二十八日迄本
 社并各地方廳ニ於テ引換遣候條所持ノ者ハ右日限中決
 テ無相違申出交換可致旨各管下一般無漏洩觸示早々可
 令處分尤通用ハ不相成候萬一右期限ヲ過何様歎願候共
 採用不致斷然可爲廢物候此旨相違候事

〔增〕大藏省達〕七年二月十八日第十四號 西京大坂神戸大津敦賀爲換

會社金券引換期限ノ儀客歲當省第百八十五號ヲ以相
 違候通本月廿八日限リ滿期ニ付テハ期限中各地方廳
 二於テ逐次引換遣候分並租稅其他收納物ノ内へ預メ

取立有之既ニ上納可取計積ニテ未々上納不相濟分共
 來ル三月二十日ヲ限リ上納取計其旨同時紙幣寮大坂
 出張同寮ノ内へ可届出尤右日限マテ自然上納序無之
 見据候向ハ右引換期限後者早速各根社へ相廻交換取
 計其段前同日マテ同寮へ可届出候此旨相違候事

〔增〕大藏省達〕七年五月廿五日第十二號 西京大坂神戸大津敦賀爲換

會社金券引換ノ儀ニ付客歲中再三當省ヨリ及布達既
 二本年二月廿八日滿期ニ候所兎角引換殘モ有之趣相
 聞畢竟人民ニ於テ右布達振ヲ服膺セサル所ヨリ等閑
 打過不都合ニ候條今般詮議ノ次第有之於各地方官管

下一般へ厚ク致告諭右金券所持人名種類員數等詳細
取調來ル八月三十一日限有無共東京紙幣寮へ可届出
此旨相達候事

○横濱爲替會社ノ金券引替

〔布達〕六年十月十九日大今般横濱爲換會社改革ニ付去ル明
藏省第四百四十六號
治二年以降同會社ヨリ發行ノ金券二十五二種各地方廳并
横濱第二國立銀行ニ於テ本月廿五日ヨリ來明治七年一月
三十一日マテ引換爲致候條所持ノ者ハ右日限中無遲滯申
出引換可申尤同年二月一日ヨリ斷然通用令停止候此旨布
達候事

但本文金券ノ儀ハ東京爲換會社發行ノ品ト一様ノ形ニ
テ只表面地名ヲ記シタル一顆之印章ヲ以區別有之事ニ
付能々必附可申事

〔増〕大藏省達第六年十月十九日 這回横濱爲換會社改革ニ付
右會社發行金券ノ儀當省第四百四十六號布達ノ通來明治
七年二月一日ヨリ通用令停止候條右引換爲見本二十五
兩札壹兩札各十枚宛相渡候間迅速降手處分可有之其引
換元金ノ儀ハ兼テ取立置候租稅亦ハ置金ノ内ヲ以テ取
計尤右金券ヲ以租稅其他上納物ニ加へ不苦候得共爲夫
諸上納可成丈遷延不相成様注意取計可申候此旨相達候

事

但本文金券ノ儀、毎月交換高種類トモ翌月五日付ヲ限
リ引換有無トモ報告書紙幣寮并大坂出張同寮ノ内へ
地方ノ最寄都合ヲ以差出且追テ結局届出ノ節見本札
相納可申候事

〔増〕大藏省達第七年六月九日 明治六年當省第四百十七號
布達ヲ以横濱爲換會社發行二十五兩券一兩券各十枚
シ、見本トシテ下渡置候處同社ノ義既ニ五月三十一
日限ニテ金券引換相止メ且東京爲換會社ノ義モ本月
三十日ニテ滿期候ニ就テハ右見本券未タ返納不相濟

×五九

府縣早々取纏メ東京紙幣寮へ返納可致此旨相達候事
〔増〕布達第七年一月廿四日 横濱爲換會社發行金券各地方應
并横濱第二國立銀行ニ於テ本年一月三十一日マテ引換
爲致候間所持ノ者ハ右日限中無遲滯申出引換可中候様
客歲當省第四百十六號ヲ以及布達置候處右金券兎角諸
方ニ散布致居日限通リ引換難行届趣ニ付格別ノ詮議ヲ
以更ニ當三月三十一日迄延期爲致候條右期限中無相違
申出交換可致此旨布達候事

〔増〕大藏省達第七年三月廿七號 横濱爲換會社發行金券各地方
應并横濱第二國立銀行ニ於テ引換之儀本月三十一日迄

延期爲致候條所持之者ハ右期限中無相違申出交換可致
 旨本年當省第五號ヲ以テ及布達置候處于今引換方不行
 屆諸方ニ散布致居候趣右ハ再應布達ノ旨ヲ注意セサル
 所ヨリ竟ニ引換ノ機ヲ外シ萬々不都合ノ次第ニ付期限
 後ハ無論廢物ト爲シ可申管ノ處左候而者細民共可爲難
 義ニ付更ニ特殊ノ典ヲ以テ來ル五月三十一日迄再延期
 爲致候條右日限中決テ無遺漏交換可致萬一右期限ヲ過
 何様苦情歎願申立候共採用不致斷然可爲廢物條各管下
 一般懇々觸示其趣旨徹底候様可取計此旨相達候事

〔增〕大藏省達〔七年六月廿七日第六十五號〕東京並ニ橫濱爲換會社金券引

換期限ノ儀ニ付客冬以來再三及布達候通り橫濱ノ方ハ
 去月三十一日限リ東京ノ方ハ本月三十日限リ滿期ニ付
 テハ期限中各地方廳ニ於テ引換遣追テ租稅其他上納ノ
 廉ヘ差加ヘ可相納積ニテ未タ上納不相濟分有之候ハ、
 何レモ來ル八月十五日ヲ限リ必ス上納取計其旨同時東
 京紙幣寮ヘ可届出且右日限マテ自然上納序無之見据候
 向ハ其以前同寮ヘ申出何分ノ差圖ヲ受ケ取計可申此旨
 相達候事

〔增〕大藏省達〔七年七月十日第七十三號〕東京橫濱新潟爲換會社金券
 引換ノ儀ニ付再三當省ヨリ及布達橫濱會社金券者本

年五月三十一日東京新潟兩會社金券者同六月三十日
 限リニ候處兎角引換殘モ有之趣相聞畢竟人民ニ於テ
 右布達振ヲ服膺セサル所ヨリ等閑打過不都合ニ候條
 今般詮議ノ次第有之於各地方官管下一般へ厚ク致告
 諭右金券所持人名種類員數等詳細取調來ル九月三十
 日限リ有無トモ東京紙幣寮へ可届出此旨相達候事
 〔布告〕七年九月廿號橫濱元爲換會社洋銀券發行差許置候後去
 ル明治五年八月中國立銀行條例頒布ニ付テハ右銀券通用
 ハ可差止ノ處今般詮議ノ次第有之更ニ別紙規則ヲ定メ從
 前ノ通發行差許候條此旨布告候事

洋銀券發行規則

第一條

橫濱洋銀券發行ハ特別ノ詮議ヲ以テ從前ノ通第二國立
 銀行へ負擔セシメ其事務ヲ取扱フモノモ亦同銀行ノ役
 員ニテ兼務ス可シ

第二條

其發行高ノ總數ハ百五拾萬弗ト定メ其種類ハ五弗拾弗
 貳拾弗五拾弗百弗五百弗千弗ノ七種タル可シ

第三條

此營業ニ付テハ洋銀賣買ヲ專ラト爲シ又人民ノ望ニ

リテ日本通貨ヲ預リ置キ洋銀ヲ貸渡シ或ハ洋銀ヲ預リ置キ通貨ヲ貸渡スモ勝手タル可シ

第四條

引換用意金ノ高ハ實地散布高ト同數ナル正弗或ハ通貨ヲ備フ可シ

但該銀行ノ發行紙幣ヲ以テ此用意金ヘ加フ可カラス

第五條

此用意金ハ物品ヲ抵當ニ取リテ運用シ又ハ利益ヲ取リテ他ニ預クル等ノ事ヲ嚴禁ス而シテ此用意金ハ銀行本業ノ準備金ト混ス可カラス萬一用意金額不足ナルカ又

ハ彼是融通運交スル等ノ如キ不正ノ舉動之レアルニ於テハ第十二條十三條ニ照準シテ嚴重ノ處置ニ及フヘシ但此銀券融通ノタメ銀行ノ便ニ因リ大藏省ノ許可ヲ得テ慥カナル「バンク」等へ預備ノ舉ヲ爲スハ此格ニアラス

第六條

每半ケ年出納決算ヲ遂ケ其所屬諸費ヲ引去リ純益アラハ株高ニ應シ配當ス可シ

第七條

此營業ヲ允許スルニ付キ追テ其益金ノ内ヨリ相當ノ稅

金ヲ政府ニ納ムヘシ右納方ハ向後政府ニヨリテ制定ス
ル所ノ銀行税金ニ準シ大藏省ノ指令ニヨリテ上納ス可
シ

第八條

洋銀券發行ニ付每半ケ年其事務ノ景況及ヒ利益發行銀
高引換高并ニ其平均高用意金有高等ノ詳明ナル報告書
計表等ヲ紙幣頭ニ差出ス可シ其書式ハ紙幣頭ノ差圖ニ
從ヒ此銀行頭取々締役之レニ記名調印ス可シ
但日々ノ發行高引換高用意金高洋銀相場ノ報告ハ其
營業休暇日ノ外ハ毎日紙幣頭ニ差出ス可シ

第九條

右洋銀券發行ヲ允許スルニ付キ此銀行ニ於テハ徵信ノ
爲メ其抵當トシテ實地散布高三分一丈ケノ眞價アル公
債證書又ハ不動産ヲ大藏省出納寮ニ預ケ置ク可シ尤此
抵當物ハ決シテ銀行本業ノ資本ニ關セス完ク株主家産
ノ内ヲ以テ別段差出ス可シ
但三分一ノ算計ハ半ケ年間實地散布ノ平均高ヲ以テ
之ヲ定ムヘシ

第十條

紙幣頭ハ大藏卿ノ許可ニ從ヒ營業ノ實際ヲ詳知スルタ

メ時々官員ヲ派出シ營業中ノ時間ナレハ何時ニテモ其
用所ニ至リ所屬簿冊計表及ヒ發行總高殘數引換高用意
金有高等ヲ緻密ニ點檢シ又銀行役員不正ノ所爲ナキヤ
否ヤヲ督察シ其實況ト考按ノ趣旨トヲ書認メ紙幣頭ニ
報告セシム可シ

第十一條

此銀券ヲ營業時間中ニ持參シテ引換ヲ望ムル之ヲ拒ミ
或ハ之ヲ怠テ次ノ日ニ讓ル等ノヲ禁止ス

第十二條

萬一前款ノ趣旨ニ悖リ正弗或ハ通貨ヲ以テ引換ヲ爲サ

ルルハ持參人ハ其旨ヲ地方官廳ニ申出可シ而シテ地
方官ハ一應之ヲ該銀行へ質シ全ク一時ノ怠惰ニテ相拒
ミ別段事故モ之レ無クハ直ニ譴責シテ引換ヲ爲サシム
可シ若シ用意金ノ不足ヨリ起リシト判然メラハ至急其
旨ヲ紙幣頭ニ申通スヘシ

第十三條

紙幣頭ハ此報告ヲ地方官廳ヨリ得レハ速ニ官員ヲ派出
シテ其事實ヲ推問シ何等ノ事故ニテ用意金不足ヲ生シ
タル儀判然メラハ暫ラク此出納ヲ差止メ其頓末ヲ紙幣
頭へ稟告ス可シ

第十四條

紙幣頭ハ尙大藏卿ニ稟議シ右用意金ノ欠額ヲ補フタメ兼テ預リ置キタル公債証書不動産ヲ没入スル旨ヲ申渡シ右証書ヲ出納頭ヨリ受取り大藏卿ノ許可ニ從ヒ便宜賣却シテ用意金ノ全額ニ滿タシメ過剩アラハ下ケ戻ス可シ若シ不足アレハ株主一同銘々ノ身代ニ掛ケテ之レヲ償ハシメ然ル後跡引受人ヲ命ス可シ

第十五條

株主三分二以上ノ集議ニ因リ此銀行本業ヲ廢セシトスルハ先ツ洋銀券未發行ノ現額即チ銀行ニ存在シテ未

ノ及ヒ散布高ノ用意金トモ聊カ欠額之ナキ旨ヲ紙幣頭ニ申立ツ可シ紙幣頭ハ直ニ官員ヲ派出シテ銀券用意金トモ有高檢査ノ上當分日々出納ヲ監督セシメ至急大藏卿ニ稟議シ跡引受人ヲ命ス可シ

第十六條

右ノ通政府ニ於テ嚴重ニ保護シ又銀行ニ於テモ此規則ヲ遵奉シ確實ニ營業セシ上ハ異變アルマシキ筈ナレモ萬一該銀行非常ノ災害ヲ蒙リ大損失ヲ釀成シ銀行條例第十八條ノ手續ニ從ヒ本業ヲ處分スルニ際シ此銀券ノ用意金多分ノ欠額アリテ而カモ株主一統之ヲ補フ能

ハサルルハ頭取々締役一同身代限り取り立其株主へハ株金ノ割合ヲ以テ之ヲ賦當シノ譬ハ頭取々締役一同テ此身代限り取立テ高五萬圓ナルハ其割合ヲ若シ右以テ外カ株主へ株金高ニ應シテ配賦スルヲ云フ若シ右割合高ノ出金ヲ爲シ得サルモノハ身代限りヲ以テ之ヲ債ハセ其集金高へ兼テ出納寮ニ預リ置キタル公債証書不動産ヲ賣却シ其代價ヲ之レニ加へ此總合高ト銀券散布高トヲ較算シ銀券ノ割引高ヲ定メ其趣旨及ヒ割合高引換方期限等明晰ニ記載シ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ニテ世上ニ公告ス可シ

第十七條

政府ノ都合ニヨリテ要用ノコアレハ此規則ヲ増補シ又ハ之ヲ改革シ又ハ之ヲ廢止スルコアル可シ

○東京並新潟爲替會社ノ金券引換

〔布達〕六年十一月廿四日大藏省第百六十五號 今般東京爲換會社改革ニ付去ル

明治二年以降同會社ヨリ發行ノ金券一廿五兩二種各地方廳并東京第一大區十四小區囃殼町二丁目爲換會社ニ於テ當十二月一日ヨリ來明治七年二月廿八日迄引換爲致候條所持ノ者ハ右日限中無遲滯申出引換可申尤同年三月一日ヨリハ斷然通用令停止候此旨布達候事

但本文金券ノ儀ハ横濱爲換會社發行ノ品ト同種ニテ只

表面右ノ方華押ノ下ニ地名ヲ記シタル一顆ノ印章横濱
 ハ表面左ノ方ニ地ヲ以區別有之事ニ付能々心附可申事
 名ノ印章押捺有之
 (增)大藏省達(六年十一月二十四日第六十六號) 這回東京爲換會社改革ニ
 付會社發行金券ノ儀當省第六十五號布達ノ通來明治
 七年三月一日ヨリ通用令停止候條迅速降手所分可有之
 右引換元金ノ儀ハ該應置金等ノ内ヲ以取計尤右金券ヲ
 以租稅其他上納物ニ差加ヘ不苦候間諸般不都合無之様
 注意取計可申候此旨相達候事
 但見本札ノ儀ハ先般第四百四十六號百四十七號ヲ以相
 達候横濱爲替會社發行ノ品ト同種ニテ管金券表面地

六六〇

名ヲ記シタル一顆ノ印章ヲ以區別致シ候迄ノ儀ニ付
 此度ハ別段見本札相渡不申候條此分引換相濟候迄横
 濱會社金券見本ハ上納ニ不及候其他百四十七號達之
 通相心得可申事
 (增)布達(七年六月十九日大署) (前)ノ横濱爲替會
 藏省第五十九號
 (增)布達(七年二月廿七日) 東京爲換會社發行金券各地方廳
 大藏省第二十號
 并東京第一大區十四小區蠣殼町三丁目爲換會社ニ於テ
 (本年二月廿八日迄引換爲致候間所持ノ者ハ右日限迄無
 遲滯申出引換可申旨客歲當省第六十五號ヲ以及布達
 置候所右金券兎角諸方ニ散布イタシ居日限通引換難行

屆趣ニ付格別ノ詮議ヲ以更ニ當四月三十日迄延期爲致候條右期限中無相違申出交換可致此旨布達候事

〔増〕大藏省達日第七年四月廿四號東京爲換會社發行金券各地方應并東京第一大區十四小區蠣殼町二丁目爲換會社ニ於テ引換ノ儀本月三十日迄延期爲致候條所持ノ者ハ右期限中無相違申出交換可致旨本年二月當省第二十號ヲ以反布達置候處于今引換方不行屆諸方ニ散布致居候趣右ハ再應布達ノ旨ヲ注意セサル所ヨリ竟ニ引換ノ機ヲ外シ萬々不都合ノ次第ニ付期限後ハ無論廢物ト爲シ可申答ノ處左候テハ細民共可爲難儀ニ付更ニ特殊ノ典ヲ以

來ル六月三十日迄再延期爲致候條右日限中決テ無遺漏交換可致萬一右日限ヲ過何様苦情歎願申立候共採用不致斷然可爲廢物條各管下一般懇々觸示其趣旨徹底候様可取計此旨相達候事

〔大藏省達〕日第七年四月廿四號新濶元爲換會社發行金券二十五兩

兼テ根社手限リニテ大抵引換候趣ノ處于今聊引換殘有之右者東京橫濱兩會社發行ノ分ト同品當地名ヲ記シタル一類ノ印章ヲ以區別相立候迄ノ儀ニ付人民ニ於テ何レモ同一種ノ物ト見認リ右兩會社ノ分ト混淆散布致居候哉モ難計其儘廢物ト爲シ候テハ細民共可爲難儀ニ付格別ノ譯ヲ

以東京熨殿町二丁目爲換會社へ申付此節ヨリ來ル六月三十日迄引替爲致候條各地方廳ニ於テモ同様相心得從前會社金券引換ノ振合ヲ以可致處分尤員額至少ノ儀延期等ハ一切不爲致管ニ付後日不都合無之様注意取計可申此旨相達候事

但引換有無共來ル七月十日附ヲ限リ紙幣寮へ可届出事

〔增〕大藏省達 日第七年六月廿七號 略ス (前) 社ノ横濱爲替會

〔增〕布達 七年七月十三日大略ス (前) 社ノ各地爲替會

第六卷 海運

第一章 船舶所持

第一款 總則

〔布告〕己巳十月七日 西洋形風帆船蒸氣船百姓町人ニ至ルマテ所持

差許サル (抄錄) (民法第二篇第一卷第一章第三款ヲ見合セ)

〔布達〕己巳十二月民 西洋形商船蒸氣百噸ニ付一ヶ年金十

五兩風帆ハ百噸ニ付一ヶ年金十兩宛税金通商司へ可相

納候事

但在來日本製商船ノ分ハ積石數百石ニ付金一兩宛可

相納事

〔布達〕日己十二月決定庚午正月廿七
日民部外務兩省ヨリ布達ス

商船規則

西洋形商船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除
クノ外在來日本製造ノ船ハ勿論西洋形商船ニ至ル迄總テ
民部省中通商司ノ管轄ニ被仰付候條得其意右西洋形商船
所持ノ者或ハ新規買求候者ハ民部省外務省連印ノ免許狀
申請ヘシ尤別紙規則書一通開港場運上所ヨリ相渡シ所持
セシメ候條其旨相心得ヘク候一体日本製造ノ船ハ度々難
破ノ患モ有之人命荷物等ノ損傷少カラス詰リ皇國ノ御損
失ト相成候ニ付追テハ不殘西洋形ノ大船ニ仕替度御旨趣

ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可
相心得候乍去密商拔荷等不心得之儀相勸候モノハ嚴重取
締不致候テハ不相濟ニ付別紙之通御規則御取極相成候儀
ニ付津々浦々ニ於テ此旨屹度可相守候事
右ノ通御沙汰候事

免狀案

記

第何號

商船

壹艘

船形

長何間

幅何間

檣何本

スクー子ル形カ

バルクカ

鐵製カ

木製カ

蒸氣船ノ分ハ

暗車蒸氣カ

外輪蒸氣カ

蒸氣

共

馬力

風帆船

噸數

船ノ賣主

何國商人姓名

船ノ原名何々

船ノ改名何々

船ノ價何々

何國

何所

何 某

船ノ所持主

右之者儀今般書面之船買入之儀願ニ依リ聞届令所持候

條別紙規則之趣堅可相守者也

年號月日

民部省
外務省

此船廢朽難用立節ニ至リ解撤致候ハ、免狀返納可致事

規則(署ス第二款ニ出見合セ)

〔海軍省達〕壬申九月八日海軍省乙第一百號御院省使ニ於テ從來所轄ノ西洋形蒸氣帆前(中略)別紙雛形ノ通相認來ル十月十五日限御差出シ可有之(抄錄)

但以後定例トシテ每年二八月取調御差出シ新規買入

或ハ破損等ハ其都度々々増減御申越可有之候也
追テ各府縣ヘモ別紙雛形ノ通相認メ可差出旨同様相
達候條爲御心得雛形相添此段モ及御達候也

別紙雛形(院省使所轄船ニカ、ル署ス)

別紙

各府諸縣廳并華士族卒農商ニ至ル迄從來所持ノ西洋形
蒸氣帆前及ヒ新規各國人ヨリ買入候船舶共右名號大小
長短馬力噸數等今般更ニ御取調相成候條別紙雛形ノ通
相認メ來ル十月十五日限リ可被差出候此段相達候也

但書(前ニ略ス)

別紙雛形

何府所轄

何國何千何百何十何年造
帆蒸氣カ何丸

長 何間

幅 何間

馬力 何程

走力 何里

帆柱 何本

積高 何程

右當時廻漕ニ相用
重モニ何國々々へ航海致シ
航海候カ又ハ當時

破損致シ何國何港於テ修復差加中ニ候カ或ハ最早難用

立何國何港へ圍置候カ

右之通相違無之候也

明治五壬申何月

何府印

海軍省御中

雛形

何府管下

第何之大區小何之區

何町何丁目何番地

何國何郡何村

華士族卒農商カ

何之誰所持

何國何千何百何十何年造帆蒸氣船カ何丸

長 何間

幅 何間

馬力 何程

走力 何里

帆柱 何本

積高 何程

右當時廻漕ニ相用致シモニ何國々々へ航海候カ又ハ當時
破損致シ何國何港於テ修復差加中ニ候カ或ハ最早難用
立何國何港へ圍置候カ

明治五壬申年九月

何之誰印

前書之通相違無之候也

壬申何月

何何府 印

海軍省御中

〔布告〕庚午三月 相州横須賀ニ於テ修船場御取建有之ニ付蒸

氣船風帆船等修復差加度者直ニ可願出候事

〔布告〕辛未四月 長崎製鍊所工部省管轄被仰付候ニ付テハ自今

修船其外願立ノ儀同省へ可申出事

〔内務省指令〕八年二月廿八日 管下商深川嘉一郎儀崎陽在留

英國人ヨリスクリスクル形ノ蒸氣アークス船一艘別紙

記載ノ通爲商用買入船免狀御下渡ノ儀願出候ニ付頃
 日大藏省へ申立置候然ルニ右船ニ附屬大砲二門小銃
 拾貳挺有之此儘海賊防禦ノ爲メ備置度申出候右免許
 狀ハ於御省御下渡ノ儀ト存候間書類相添伺(書類略之)
 四月五日書面海賊豫防ノ爲メ商船へ相備候大小砲ノ儀ハ
 壬申第貳拾八號公布銃砲取締規則第五則ニ照準差許可
 申且船免狀ノ儀ハ當省於テ下渡シ候條其旨可申出事
(内務省指令)日東京府同 府下越前堀壹町目野村米三郎
 ヨリ所有ノ西洋形風帆船へ別紙雛形ノ通アラフ相用
 度段願出取調候處不都合モ無之聞届可申存候へ私

六一

章アラフハ新規ノ儀ニ付伺(別紙略之)
 四月廿九日書面ノ趣ハ御國旗并諸官章ニ紛敷無之上ハ其
 府限リ聞届不苦候事
(指令)日八年五月五日皇國從來ノ船製疎粗薄弱常ニ顛覆ノ憂
 ヲ免レス北海道冬天ノ如キ風浪暴漲ノ際ハ遂ニ航行
 スル能ハサルニ至ル昨年中當使管内ニ於テ破船ノ爲
 人民ノ死傷貨物ノ沈没夥多有之然ルニ因襲ノ久キ船
 主其利害ヲ問ハス水手モ亦至難ヲ厭ハス恬トシテ危
 險ヲ顧ミサル者ノ如シ到底船製一變不致候テハ海路
 ノ安全ヲ保シ運輸ノ便ヲ開クヘキ目途無之依テ自今

五百石積以上日本形新造ヲ禁シ西洋形ニ製造可致旨
別記ノ通管内へ布達致度

布達案(朱書改正ノ
文ヲ舉ク)

北海道ノ儀ハ海路危険殊ニ冬天風浪ノ際従前ノ船
製ニテハ難破ノ憂不少候ニ付五百石積以上四噸七拾
分日本形新製ノ儀不相成候條自今西洋形ニ製造可
致此旨布達候事

五月十九日
日指令 同之趣聞届候事

但布達案朱書之通改正可致事

(布告)八年五月三十一日第九拾八號 海軍官船ヲ除ノ外西洋形船へ賊難防

禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告
候事

第一條 海軍官船ヲ除ノ外諸省使府縣所轄ノ西洋形官
船并ニ人民所持ノ西洋形商船へ大砲口徑四寸以內二
門小銃三拾挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スル
カ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖
モ若シ増置セントスルハ更ニ願出許可ヲ受クヘ
シ

第二條 大砲一門ニ彈藥五拾發小銃壹挺ニ同百發ヲ越